

0・1歳ダウン症児の早期教育 (Early Stimulation Program) の試み

池田由紀江，岡崎裕子，藤井和枝
柴崎正行，神谷裕子，鎌田伊子
長崎 勤，松原真理，長畑正道
高橋 純，大野由三

1. 問題と目的

精神発達遅滞児の幼児教育を概観すると，近年保育園や幼稚園における統合保育や障害幼児を対象とする通園施設での保育などにおいて，精神発達遅滞児の保育，教育内容は発展してきている。しかしながら，上記の機関で教育を受けることができるのは，早い場合で3歳であり，普通は4・5歳からである。早期に診断をうけても，教育の場に至るまでの数年間は放置されているのが現状である。

0歳からの超早期教育は，視覚障害児，聴覚障害児あるいは脳性マヒ児を対象にして，かなり実施されているが，精神発達遅滞児についてはほとんど実施されておらず，障害を診断してから数年間は多くの親は不安を抱きつつ細々と医療との関係を保っているだけである。精神発達遅滞児においても，診断が明らかになった時点から早期教育が必要である。その早期教育の内容は，医学領域や心理学領域などのいくつかの領域の密接な連携のもとに行われるべきものであるが，その方法・内容とも未だ検討されていない。

ダウン症候群（以下ダウン症）は，出生時に診断が可能な精神発達遅滞児である。その点から言えば，早期診断の後，ただちに超早期教育を実施できる典型的な精神遅滞児である。従って，ダウン症児の早期教育の内容を検討することによって，それ以外の原因による精神発達遅滞児の早期教育の方法や問題点を明らかにすることができる。

本研究では，0・1歳ダウン症児の早期教育 (Early Stimulation Program) のプログラムの検討と早期教育の効果の検討（中間報告）を行うことを目的とする。

2. ダウン症児の早期教育プログラムの概要

(1) ダウン症児の早期教育プログラムの特徴

最近の乳児研究からその母親の役割の重要性が指摘されている。これは，第一に子どもの主たる養育者である母親が，最も効果的な刺激作用の提供者になりうるということである。第二に，単に刺激を与えるという役割だけでなく，乳児期の健全な母子関係がのちの子どもの発達に大きな影響を与えるということである。

ダウン症児であると診断を告げる時期は，近年しだいに早くなっており，我々の調査では65%の親が生後1月以内に診断をうけている。診断を受けた母親をはじめとする家族は，子どもを育てる意欲すら揺らぎ，子どもをあやすなどの刺激を与えず（ダウン症児自身からの反応も極端に少く放置されたままになることが多い），健全な母子関係の形成に支障をきたすことが考えられる。

従って，我々のダウン症児の早期教育の特徴は，単に子どもの能力を促進することだけでなく親が主体的に参加することである。つまり，母親に指導技術を教えながら子どもの発達していく姿に目を向けさせ，子どもの状態をそのまま受容できるように指導することが重要である。その結果，母親は子どもを過大評価や過少評価をせず，適切な養育態度を身につけることができるであろう。

つまり，我々のダウン症児の早期教育プログラムの特徴の第一点は，(1)親が情緒的に安定し，子どもの障害をありのままに受容し，(2)子どもの発達を正しくとらえることができ，(3)それによって適切な養育態度をとることができるようになることである。

次に，早期教育プログラムの特徴の第二点目は，ダウン症児の発達を促進させることである。その

ためにダウン症児の発達を正しく把握し、現在の子どもの発達課題を決定し、毎日の育児の中で母親が実施できるプログラムを組みこむ方法がよいと思われる。

(2) ダウン症児の早期教育プログラムの内容

ダウン症児の早期教育プログラムは、次の二つに分けられる。

《親に対する指導》

生まれてまもなくダウン症と診断された親が一日も早く立ち直り、好ましい養育態度をとることができるようにするために、次のような指導を行う。

1. ダウン症についての正しい知識を得る。

ダウン症の原因、医学的合併症（心疾患、眼科、耳鼻科的問題、感染症罹患など）の問題、生命予後、精神発達・身体発育、幼児教育、学校教育など。

2. 障害児をめぐる社会的問題を知る。

福祉制度、教育・福祉機関の利用のしかた、他のきょうだいとの関係、近所の人や親籍の人とのつき合い方、父親の役割など。

3. ダウン症乳児の養育に関する一般的知識を得る。

健康管理の方法、栄養指導、生活全体の組織化など。

《早期教育プログラム》

我々のダウン症児の早期教育プログラム（精神

年齢24カ月まで）を附表に示す。このプログラムは現在試案のものであり、今後さらに改正をかさねる予定のものである。また、参考にしたものは、下記のものである。

本早期教育プログラムは、次頁に示すように粗大運動、知覚・攻緻運動、言語、社会性・身辺自立の四領域から成っている。

各領域は、2～8の下位項目に分かれ、下位項目はそれぞれスモールステップ化されている。

3. 方法

(1) 対象児

対象児は表1に示した31名である。後述するように三つの指導形態があり、それぞれ通所指導19名、家庭訪問指導5名、通信指導7名であった。しかし、指導形態は途中で変更する場合もあった。参加時の平均生活年齢は、通所指導1才2カ月、家庭訪問指導0才8カ月、通信指導1才4カ月であった。参加時、生活年齢が0歳であったもの10名、1歳であった者21名であった。

対象児31名のうち2名はD・G転座型であり、他はすべて標準型トリソミーであった。合併症では、心疾患6名、点頭てんかん1名であった。

(2) 指導期間

表2に、対象児全員の指導期間を示した。形態別の平均指導期間を求めると、通所指導6.3カ月、家庭訪問指導5.6カ月、通信指導4.7カ月であった。

大学	プログラム名	指導領域
Washington (U. S. A.)	The Down's Syndrome Programs	Gross Motor, Fine Motor, Cognitive, Language, Social & Self-Help.
Oregon (U. S. A.)	Teaching Your Down's Syndrome Infant : A Guide for Parents	Gross Motor, Fine Motor, Communication, Social and Self-Help
Michigan (U. S. A.)	邦訳 乳幼児の発達指導法 高松鶴吉監訳 医歯薬出版	粗大運動、知覚・攻緻運動、認知、言語、社 会性・情緒、身辺自立
Macquarie (Australia)	Down's Syndrome Program	Gross Motor, Fine Motor Adaptive, Language, Expressive, Personal-Social

本指導プログラムの領域と内容

粗大運動		知覚・攻緻運動		言語		社会一身边自立	
首のすわり	(15)	視覚	(6)	表出言語	(16)	愛着行動	(11)
お坐り	(16)	手を伸ばす	(3)	受容言語	(20)	社会的遊び	(15)
寝返り	(6)	握る	(9)			食事	(29)
はいはい	(7)	物の操作Ⅰ	(28)			着脱	(21)
立位	(10)	物の操作Ⅱ	(5)			排泄	(5)
歩行	(12)	問題解決	(9)				
蹴りと跳躍	(5)						
投げる	(2)						

() 内の数値はシート枚数を示す。

Table 1 対象児 (人数)

CA (才)	通所指導 男 女 計		家庭訪問指導 男 女 計		通信指導 男 女 計		計
0	3	3	6	1	2	3	10
1	8	5	13	1	1	2	21
計	11	8	19	2	3	5	31

Table 2 指導期間

対象児	性	参加 時CA	形態	55年						56年					
				6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
Y I	女	0:1	通 所 指 導												
E H	男	0:3													
H S	男	0:3													
S S	女	0:7													
D F	男	0:8													
A O	女	0:11													
N I	女	1:0													
T I	男	1:0													
F S	男	1:1													
D S	男	1:3													
A A	男	1:4													
T Y	男	1:5													
H A	男	1:6													
S W	男	1:7													
M T	男	1:10	訪 問 指 導												
H K	女	1:10													
S H	女	1:11													
Y K	女	1:11													
A Y	女	1:11	通 信 指 導												
A I	男	0:2													
T S	女	0:3													
Y M	女	0:4													
T K	男	1:0													
M S	女	1:8	通 信 指 導												
T N	男	0:11													
T N	男	1:0													
M F	男	1:3													
E O	男	1:4													
M O	男	1:4													
K O	女	1:10	(才カ月)												
H K	男	1:11													

(3) 指導形態

通所指導を原則としたが、距離的な問題やその他の家庭の事情、あるいは対象児の年齢が小さく健康管理上から通所不可能な場合には、家庭訪問指導と通信指導を行った。

通所指導とは、親と子どもが通ってくるものであり、家庭訪問指導とはスタッフが子どもの家庭を訪問するもの、通信指導とは通信による指導である。

(4) 指導方法

指導方法は、三形態とも原則は変わらないので通所指導における方法について述べる。

① 発達診断

a. 発達診断

古賀式MCC ベビーテスト、津守式乳幼児精神発達検査、Bayley Scales of Infant Development (Motor Scale)、行動観察から



子どもの発達段階および発達課題を明らかにする。この発達診断は3～6カ月ごとに実施した。

- b. 栄養調査, 生活時間, 家庭環境調査により, 子どもの生活全体の問題点, 親の障害受容の程度などを明らかにする。

②指導方法

a. 集団指導

前述した早期教育プログラムの内容のうち, 親に対する指導の内容(1.ダウン症についての正しい知識を得る。2.障害児をめぐる社会的問題の理解 3.ダウン症乳児の養育に関する一般の知識を得る)を, テーマごとに講義したり討議する。

b. 個別指導

早期教育プログラム発達評価表により, それぞれの子どもの粗大運動, 知覚・攻撃運動, 言語, 社会性・身辺自立の四領域における発達を評価する。(早期教育プログラム発達評価表とは, 附表の「早期教育プログラム」の各項目と同じものである。)

その評価にもとづいて, 子どもの現在の発達目標を定めプログラムシート作成する。それぞれのプログラムの発達目標と家庭で実施する方法, 記録のしかた, 援助のしかたを説明する。

図1にプログラムシートの例を示した。

4. 結果と考察

(1) 0・1歳ダウン症児の早期教育プログラムの検討

0・1歳ダウン症児を対象に「早期教育プログラム」を試案し実施した。その結果, 以下に述べるようないくつかの点について検討事項があることがわかった。

① “親が参加する” という方法について

我々には, 精神発達遅滞児の早期教育の本質は “親がいかにじょうずに育てるか” にあると信じている。たとえ毎日専門機関に通おうとも, 生活時間のほとんどを親とともにすごしている子どもの発達は親の影響を大にうけるのである。特に0歳・1歳の乳児については, 障害を正しく理解

言語(表出)-3

(目標) ママ, ダダなど母音と3音が連なった音を出す

(訓練方法)

赤ちゃんに面と向かい合って, お母さんが「ママ」「ダダ」「パパ」などの発声をくりかえし, 赤ちゃんがまねするようにほげます。母→子, 子→母へとくりかえし行なう。
・赤ちゃんが, その音をまねたら, ほめてやる。

(記録)

/	/	/	/
/	/	/	/
/	/	/	/
/	/	/	/
/	/	/	/
/	/	/	/
/	/	/	/
/	/	/	/
/	/	/	/
/	/	/	/

(気づいたこと)

Fig 1 プログラムシートの1例

しつつ余裕をもって育児することが中心となる。

我々の指導に参加した母親に対しこの方法についてアンケート調査を行い感想を書いてもらった。その結果, 下記に示すような感想があった。

- ・訓練を生活の中に盛り入れ, 毎日くり返し, 子どもにも無理なく行える。
- ・育て方, 接し方に自信がもてた。
- ・焦りがなくなった。
- ・働きかける具体的な方法がわかった。
- ・最も大切な事は子どもに刺激を与えることだと思うので大変よい。
- ・親子関係のかかわり方が深まった。
- ・子ども自身の反応が弱いのでそのままにしがちであるが「早期教育」がきっかけとなって親が努力しはじめることができた。

このような感想とともに, この方法の欠点を記述させたところ次のような意見があった。

- ・家庭ですべきことが多いと負担である。
- ・雑事におわれてしまって母親が家庭で行うのは

不十分である。

- ・子どもに興味をもたせようとしてうまくいかないとイライラする。

以上のアンケート調査や我々の観察から考察すると、親が主体的に参加し子どもの発達に合わせて正しい養育態度を身につけるといふ目標はかなり達成されたと言えよう。しかし、この方法も、親の考え方や能力、家庭事情などの違いを充分考慮しながら行わねばならないことを示している。

②指導回数

指導間隔は月一回で実施した。ダウン症児の0歳の時期は、感染症にかかりやすく身体的健康管理の面から、頻繁に外出することは好ましくない。生後2カ月又は3カ月から開始した症例の場合は、しばらくの間家庭訪問指導を行った。このような点から考えると0歳の時期は月一回の指導でよいと思われる。

しかしながら、1歳になるとダウン症児の多くは坐位が可能となり興味もひろがりより多くの経験をすることが必要となってくる。できれば月二～三回の間隔がよいのではないと思われる。

以上、主に、指導方法について若干の問題点を指摘したが、「早期教育プログラム」の検討については現在実施中である。

(2) 早期教育プログラムの効果 (中間報告)

①精神年齢 (Mental Age) の変化

発達診断に実施した古賀式 MCC ベビーテストによる精神年齢の変化を図2に示した。点線で示した曲線はCarr (1975) による訓練をうけない家庭養育ダウン症児の精神年齢 (Bayley Scales of Infant Development による) の平均曲線である。我々の症例の精神年齢と比較してみると、12カ月ごろまでは Carr の曲線とほぼ類似しているが、それ以後の発達は Carr のそれよりかなり良い発達を示している。なお、症例7は點頭てんかんを合併している女兒であり、症例10は重篤な心臓疾患を合併し全身状態の悪い男児である。このような症例は、精神発達も著しく遅れていることがわかる。

②発達指数 (DQ) の変化

図3は、古賀式 MCC ベビーテストのDQを初回発達診断時と最後の発達診断時の変化を示した

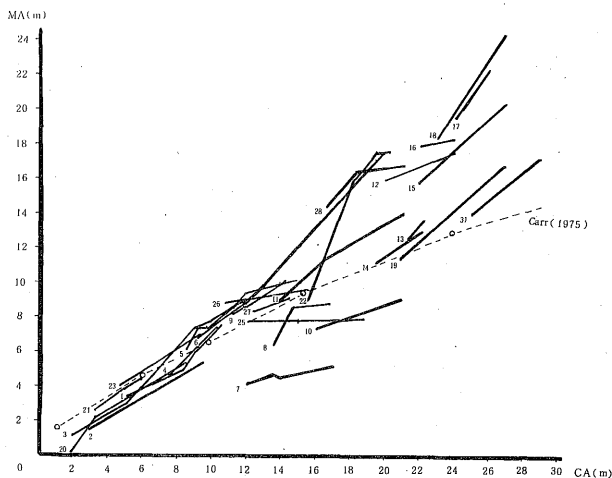


Fig. 2 Mental Age Change

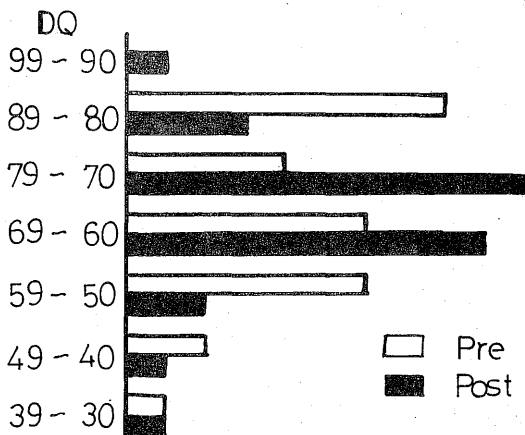


Fig. 3 DQ Change

ものである。それによると、DQ 89~80とDQ 59~50が減少し、DQ 79~70、69~60が増加している。DQ 89~80が減少しているのは、ダウン症児のDQはCAとともに低下するという報告 (Melyn, 1973, 池田, 1973, 藤田, 1974) と同じ現象を示すものと思われる。

図4は、最後に検査したDQを、6~12カ月未満、12~18カ月、18~24カ月、24~30カ月の範囲別に平均を示したものである。比較するために藤田 (1974) と Carr (1975) のDQの変化を図示した。我々の結果は、DQの低下が著しくないという点でややその効果がうかがえるが、早期教育の効果をDQの向上で検討するのは余りにも機械

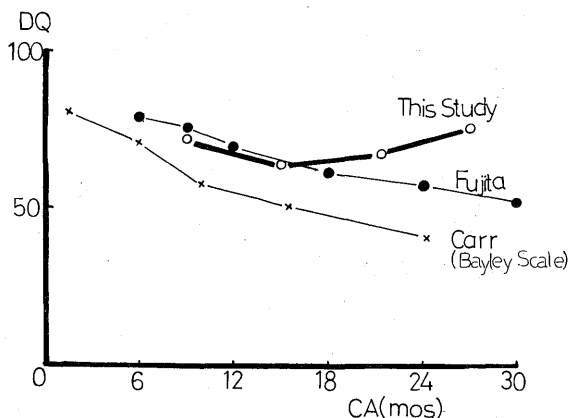


Fig. 4 DQ of post test

的すぎると考える。今後縦断的に検討し、その効果について分析する必要がある。

③運動機能

四領域のうち粗大運動の発達についてその効果を検討した。特に12カ月未満で早期教育に参加した者10名について、首のすわり、ねがえり、坐位、はう、つかまり立ちについて達成できた月齢を検討した。首のすわりの完成は、両手をもって引き起こしをする時首が後ろにのこることなく上に挙がる時期とした。ねがえりは援助なしで仰向けからうつ伏せ、うつ伏せから仰向けにねがえる時期とした。また、坐位の完成は、体の支えなしに、又両手をどこにも支えることなしに10分間位おすわりの姿勢を保つ時とした。はうの完成は、両手両ひざを使ってはいはいと高ばいができる時期のいずれかとした。つかまり立ちは、援助なしに坐位からつかまり立ちとなり、しばらくつかまり立ちの姿勢が保てる時期とした。

表3は、その獲得月齢の平均を示したものであ

る。特別に訓練を受けていないダウン症児の平均月齢と比較した(池田, 1978)ところ、首のすわりが5.3カ月でかなり早くなっており、特におすわりの時期が9.7カ月(池田, 11.3カ月)であり早くなっている。歩行については、現在まだ歩行の段階まで至っていないので今後の課題となっている。

ダウン症児の低筋緊張はMcIntire(1964), 長田(1978)も指摘しているとおりである。特に自ら身体を動かすことがなくおとなしく仰向けでねていることが多いこと、おすわりの時期には下肢外転施位の赤ん坊坐位で各種坐位がとれないこと、四つ這いが少くいざりや高這いが多いことがダウン症児の特徴である。今回の指導では、このようなダウン症児の特徴を充分考慮したうえで、粗大運動機能の改善をめざした。前述したように運動機能の発達において効果がみられたが、さらに検討したい。

5. 要 約

生後1～2カ月からのダウン症児を対象にした超早期教育は、日本ではほとんど手をつけられていない。今回、最も早期から早期教育を開始したダウン症は生後1カ月からであった。医療、保健、発達心理の各領域からアプローチする「早期教育プログラム(Early Stimulation Program)」を試案し実施し検討した。

本研究は、昭和55年度厚生省心身障害研究「長期疾患療育児の養護・訓練・福祉に関する総合的研究」研究費補助金の援助により行った。

表3 12カ月未満で早期教育に参加したDS児の発達

項 目	平均月 齢 (SD)	池 田 (1978) ※
首のすわり	5.3月 (0.55)	6.6月 (1.3)
ねがえり	8.3 (1.03)	8.9 (3.1)
おすわり	9.7 (0.66)	11.3 (2.9)
は う	14.0 (2.16)	15.3 (4.7)
つかまり立ち	15.4 (2.61)	—

※早期教育を受けていないDS児47名の平均月齢

- 1) Bayley, N.: Manual of Bayley Scales of Infant Development. The Psychological Corporation, 1969.
- 2) Carr, J.: Young children with Down's syndrome. Butterworths, 1975.
- 3) 藤田弘子, 小田ミヤ子: 発達検査からみたダウン症乳幼児の知能の追随的研究. 大阪市立大学家政学部紀要, 22 : 149, 1974.
- 4) Hanson, M. J.: Teaching your Down's syndrome infant. University Park Press, 1977.
- 5) 池田由紀江: ダウン症乳幼児の精神発達における縦断的研究. 東京教育大学教育学部紀要, 20:119, 1974.
- 6) 池田由紀江: ダウン症の知能・性格の特徴と育て方. 理学療法と作業療法, 12(10): 671, 1978.
- 7) 古賀行義: MCCベビーテスト. 同文書院, 1967.
- 8) McIntire, M. S. & Dutch, S. J.: Mongolism and generalized hypotonia. Amer. Jour. Ment. Defic., 68:669, 1964.
- 9) Melyn, M. A.: Mental and developmental milestones of noninstitutionalized Down's syndrome children. Pediatrics, 52 (4), 542, 1973.
- 10) 長田香枝子, 池田由紀江: ダウン症候群のHypotoniaと運動発達の特徴. 第16回日本特殊教育学会発表論文集, 1978.
- 11) 高松鶴吉監訳: 乳幼児の発達指導法. 医歯薬出版
- 12) 津守真: 乳幼児精神発達診断法. 大日本図書. 1965.

Early Stimulation Programs for Down's Syndrome Infant — Birth to Age 1

Yukie IKEDA, Yuko OKAZAKI, Kazue FUJII, Masayuki SHIBASAKI,
Yuko KAMIYA, Yoriko KAMATA, Tsutomu NAGASAKI, Mari MATSUBARA,
Masamichi NAGAHATA, Jun TAKAHASHI, Yoshizo OHNO

In recent years, many early stimulation programs have been demonstrated and discussed about its effects. In Japan, early stimulation programs usually include above 3 years old, so there are few programs for birth to age 3.

We took much interest in foreign early stimulation programs, so we set about making our original programs. Referring to some foreign programs, we made programs with small steps in four areas — gross motor, fine motor, communication and social self-help.

31 infants with Down's syndrome were trained by our original early stimulation program. The effects of early stimulation program were analyzed by means of MCC Infant Developmental Test, Bayley Scales of Infant Development (Moter scale).

Mental Age curves of Down's syndrome infants were superior to control (Carr, 1975). At motor developmental milestone, the mean age of head control and sitting was earlier than the control (Ikeda, 1976).

粗 大 運 動

首のすわり

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	左右への動き(1) うつぶせにされると、 頭を横に向ける ※〔1〕	1. 子どもをうつぶせにする。 2. 子どもの左右どちらかに、ガラガラなどのおもちゃを置いて、子どもの注意をひくようにそのおもちゃを振って見せる。 ＜援助の方法＞ 1. 子どもが頭を向けたら、ほめる。 2. オモチャを振って見せても、子どもがその方を向かない場合、母親（あるいは他の養育者）が子どもの頭に手を添えて、オモチャの方へ頭を向けてやる。子どもがオモチャを見ている時には、興味をひくようオモチャを振り動かす。 3. 左右、両方向とも、練習する。
2	左右への動き(2) あおむけにされると、 頭を左右に向ける 〔1〕	1. 子どもをあおむけにする。 2. 首のすわりシート番号1と同一。 ＜援助の方法＞ 首のすわりシート番号1と同一。
3	左右への動き(3) 支えて坐位にすると 頭を左右に向ける 〔1〕	1. 子どもを支えて坐位にする（母親の膝の間に坐らせるとよい）。 2. 首のすわりシート番号1と同一。 ＜援助の方法＞ 首のすわりシート番号1と同一。
4	体をまっすぐに支えた時 首がぐらぐらしない(1) 〔1〕	1. 母親の両腕の中に子どもを抱きかかえ、頭の支えを少し減らす。 2. 子どもの頭は、母親の胸によりかからせておいて、オモチャを見せたり、何かを聞かせる。子どもが頭を母親の胸から離して持ち上げるように、オモチャを見せたり、音を聞かせたりする。
5	体をまっすぐに支えた時 首がぐらぐらしない(2) 〔2〕	1. 子どもの身体を支えて母親の膝の上に坐らせる。 2. 子どもは前を向いていても、母親の方を向いていても、どちらでもよいが、背中よりかからないで、自分の頭をまっすぐに保っているようにする。子どもの頭が母親の肩より高い位置になるように支え、頭をまっすぐに保っている時間を少しずつ長くしていく。
6	首のすわり(1) うつぶせで瞬時頭をも ち上げる 〔2〕	1. 子どもをうつぶせにする。 2. 両手を胸の下で組ませ、子どもの頭の前か少し上でオモチャ（例えばガラガラ）を見せる。もし、子どもが頭をもち上げて、一瞬あごが床から離れたらよい。 ＜援助の方法＞ 1. 全面介助 ― あごを母親の手で少し上げてやりながら、「ほら、見てごらん。」などと、声をかける。 2. 部分介助 ― あごをほんの少し支えてやるだけ。 3. 介助なし
7	首のすわり(2) うつぶせで、頭をもち 上げる(床に対して45° の角度で少なくとも30 秒間) 〔2〕	1. 頭と胸が幾分もちあがるように、子どもの胸の下にタオルを巻いたものや小さな枕を敷いて、うつぶせにする。もし、子どもが頭をもち上げられない時は、援助する。 (胸の下に敷く枕類は、子どもが疲れないで、長時間確実に頭をもち上げていることができるようになるまで使う。子どもがオモチャを手にとって遊ぶようになったら、枕類は取り除く。) ＜援助の方法＞ 1. 床から45°上方から、オモチャや鏡を使って頭をもち上げるよう誘う。話しかけたり、オモチャを見せて、45°まで頭をもち上げさせ、もち上げたまま保持する時間を増やしていく。 2. 保持することができるようになったら、もち上げたまま左右を見まわすことを行なわせる。

※〔 〕内の数値は、健常児が獲得する平均月齢を示す。

8	首のすわり(3) うつぶせで自分の両方の前腕で体を支えて、胸と頭(90°)をもち上げる (2)	1. 胸の下に大きな枕を置いて、両方の前腕で支えて胸をもち上げたうつぶせの姿勢をとらせる。子どもが胸や頭をもち上げるように励ます。 2. 子どもを両前腕に体重をかけたうつぶせの姿勢にする。子どもの頭を手伝ってもち上げてやり、子どもが自ら頭を上げるように励ます。
9	子どもを空間でうつぶせにして水平に支え、頭を垂直に上げる(1) (3)	1. 子どもを空間でうつぶせにして、水平に支える。子どもを母親の両膝の上でうつぶせにして、その腹部を支えてもよい。 2. 子どもの顔の前から名前を呼んだり、話しかけたりして、そちらの方向を向くように誘う。
10	子どもを空間でうつぶせにして水平に支え、頭を垂直に上げる(2) (3)	1. 首のすわりシート番号9と同一。 2. 色のついた音の出るオモチャを見せて、オモチャをゆっくり上方に動かして、両目で追わせて、頭をもち上げるように誘う。
11	あおむけから頭が後ろにのけぞることなく坐位に起き上がる(1) (5)	1. 子どもの頭と肩を支えて、ゆっくりと坐位に起こす。体が坐位に近づくにつれて頭の支えを少なくする。
12	あおむけから頭が後ろにのけぞることなく坐位に起き上がる(2) (5)	1. 子どもをあおむけに寝かせて、頭が軽くもち上がるように、頭のうしろに小さな枕か折りたたんだタオルを置く。 2. 体が床に対して45°になるまで引き起こしてやり、子どもが自ら頭をもち上げて体と平行になるまで待つ。
13	あおむけから頭が後ろにのけぞることなく坐位に起き上がる(3) (5)	1. 子どもをあおむけに寝かせて、ゆっくりと坐位に引き起こす。床から15cm程もち上げた時に、引き起こすことを中止して、子どもが自ら頭をもち上げるまで待つ。 2. 子どもを坐位からあおむけへ徐々に寝かせる。子どもが床に頭を打ちつけないように、床に枕を置いておく。この枕は子どもが頭をのけぞらせて床に打ちつけないように置く。 <援助の方法> 1. 頭をのけぞらせて床に打ちつけないよう、十分気をつける。 2. 子どもの手首をもって引き起こしてはいけない。子どもが自らの手を握って腕に力を入れて起き上がることができるようになるまでは、肩を支えて起こす。 3. 子どもが腕に力を入れて、自分で起きるようになったら、手首をもって引き起こしてもよい。
14	あおむけに寝かせて、頭をもち上げさせる。 (6)	1. 子どもの頭の後ろにタオルか小さな枕を置いて、首を少し曲げさせておく。子どもが楽に動作を行なえるようになったら、枕は取り除く。 2. 子どもの頭を後ろから支えて「頭をもち上げてごらん。」と言いながら一緒にもち上げる。 3. 子どもの足元に坐って、好きなオモチャを見せて頭をもち上げるように誘う。 4. 子どもの腰のあたりに、母親の両手を差し出して、お坐りするように言う。母親の手を握って坐ろうとすると同時に、自ら頭をもち上げ始めるまで練習する。
15	空中であおむけに支え、自発的に頭を垂直にもち上げる。 (7)	1. 子どもの背中を支えて顔を上に向けて空中に保持する。誰かに子どもの名前を呼んでもらったり、オモチャを見せて誘って、頭をもち上げさせる。 2. 顔を上に空中に支える。この姿勢にしたらずに、頭をもち上げるようになるまで、頭をもち上げる練習をする。

お坐り

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	支えられて坐る(1) 1分以上、家具あるいはだれかの手で支えられて坐る (3)	1. 家具や壁など、子どもを支えるのに適当な場所に子どもを置く。 2. 母親が子どもと対面する位置から子どもに話しかけたり、子どもの喜ぶおもちゃを見せるなどして、子どもが支えられて坐るこの姿勢を継続させるよう励ます。
2	支えられて坐る(2) 1分以上、家具あるいはだれかの手で支えられて坐る (3)	1. 母親の両手で子どもを支えて坐位にする。 ＜援助の方法＞ 1. 両手でしっかり支え、子どもと対面する位置から子どもに話しかける。 2. 同様に、子どもの喜ぶおもちゃを見せて、その姿勢を保つよう励ます。
3	支えられて坐る時、頭が安定する、坐位にさせられると頭をまっすぐに保つ (3)	1. 母親の前に子どもを坐らせるか、母親の膝にのせて胸で支える。 2. 子どもの好きなおもちゃ（音の出るものや色のきれいな目立つおもちゃがよい）を子どもの前に提示し、「○○ちゃん、見てごらん。」と呼びかける。 3. おもちゃをだんだん目の高さに合うようにあげていき、最後には、子どもの頭が床に対して90°になるようにする。 ＜援助の方法＞ 1. 子どもが頭をできるだけ長くもち上げられるように、子どもにおもちゃを見せたり、声をかけてはめてやる。 2. 色々なものを使ってみたり、子どもの注意をひくようおもちゃの動きを変えてみる。 3. 1日10回ずつ練習する。 ＜記録の方法＞ 10回中8回位まで、子どもが目標の姿勢を保持する時間は、次の何番かをシートに記入する。 ① 2秒間、② 5秒間、③ 10秒間、④ 15秒間、⑤ 20秒間、⑥ 25秒間、⑦ 30秒間、⑧ 40秒間、⑨ 50秒間、⑩ 60秒間
4	最小限の支えだけで坐る お尻のところで支えられると、身体をまっすぐに1分間坐る (4)	1. 母親の両膝の間に子どもを坐らせ、次の3つの支え方で援助する。 ＜援助の方法＞ 1. 子どもの両腕の下で支える。 2. 子どもの腰のところで支える。 3. 子どものお尻のところで支える。 ＜記録の方法＞ 1～3.のどの援助を用いたか、子どもが目標の姿勢を保持する時間は次の何番かをシートに記入する。 ① 10秒間、② 20秒間、③ 30秒間、④ 40秒間、⑤ 50秒間、⑥ 60秒間
5	ベビーチェアに坐る 両腕のついた背もたれのまっすぐな赤ちゃん用の椅子に置かれると頭と背中をまっすぐに保って坐る (6)	1. 両腕のついた赤ちゃん用の椅子（あるいはそれに似たもの）に坐らせる。 2. 必要ならば、子どものまわりにクッションを置いたり、父親の古いネクタイやタオルをシートベルト代わりに用いる。 ＜援助の方法＞ 1. 子どもの好きなおもちゃを子どもの前に示して、頭をまっすぐに保つよう励ます。
6	自分の両手で支えながら坐る 床の上に置かれると、自分の両手で支えて、1分間ひとりて坐る (6)	1. 床の上など固い面の上に、子どもを坐位にして置く。両足は適当に開かせ、両足の間に子どもの両手をつかせる。 2. もし、子どもの腕が短くて床に届かない場合には、子どもの両足の間にクッションか巻いたタオルを置いて、床の高さを調節する。 ＜援助の方法＞ 1. 目標の姿勢を保つように、母親が子どもに声をかけたり、子どもの好きなおもちゃなどを振って見せてあげる。 2. 1日10回ずつ練習する。 ＜記録方法＞ お坐りシート番号3と同一。

7	<p>支えなしで坐る</p> <p>固い表面の所に坐位に置かれると、支えなしに1分間、頭と背中をまっすぐにしてひとりで坐る(1)</p> <p>〔7〕</p>	<p>1. 子どもを固い表面の所に置き、自分の両手で支えて坐る姿勢にさせる。</p> <p>2. 次に、子どもの両腕を両膝の上に置かせて、自分で支えさせる（安定をよくするために、両足を少し開かせる）。</p> <p>＜援助の方法＞</p> <p>1. 1日10回ずつ練習する。</p> <p>＜記録の方法＞</p> <p>お坐りシート番号4の時間と同一。</p>
8	<p>支えなしで坐る</p> <p>固い表面の所に坐位に置かれると、支えなしに1分間、頭と背中をまっすぐにしてひとりで坐る(2)</p> <p>〔7〕</p>	<p>1. お坐りシート番号7と同一。</p> <p>2. 次に、子どもの片手を膝の上に置いて支えさせ、もう一方の手は、物事で遊ぶかあるいは何かをつかめるように、膝から離れた位置に保たせる。</p> <p>＜援助の方法＞</p> <p>1. 片手を自由にさせるために、オモチャを見せて励ます。</p> <p>2. 手を床や自分の身体から離すために、オモチャは顔の前ぐらいの位置に見せる。</p> <p>3. 1日10回ずつ練習する。</p> <p>＜記録の方法＞</p> <p>お坐りシート番号4の時間と同一。</p>
9	<p>支えなしで坐る</p> <p>固い表面の所に坐位に置かれると、支えなしに1分間頭と背中をまっすぐにしてひとりで坐る(3)</p> <p>〔7〕</p>	<p>1. お坐りシート番号7と同一。</p> <p>2. 次に、子どもの両手は床や自分の身体に置かないで、頭と背中をまっすぐにして、ひとりで坐る。</p> <p>＜援助の方法＞</p> <p>1. 子どもの好きなオモチャを見せる。</p> <p>2. 手を床や自分の身体から離すために、オモチャは顔の前位の位置に見せる。</p> <p>3. 1日10回ずつ練習する。</p> <p>＜記録の方法＞</p> <p>お坐りシート番号4の時間と同一。</p>
10	<p>ひとりでバランスをとって坐りながら、手を伸ばす、片手で自分の体を支えて、もう一方の手を目の高さまで上げる</p> <p>〔8〕</p>	<p>1. 子どもを坐位にし、両腕で自分の身体を支えるようにさせる。</p> <p>2. 子どもの目の高さの位置にオモチャなどを見せて、そのオモチャを取るように励ます。</p> <p>3. 目の高さ上げる手を交代させ、両方の手とも上げられるようにする。</p> <p>＜援助の方法＞</p> <p>床の上で上記の方法でできない場合、次の方法もある。</p> <p>1. くるくる巻いた毛布の上に子どもをまたがせる。</p> <p>2. 次にオモチャを子どもに見せれば、そのオモチャを取るために、どうしても子どもは片手を離さなければならない。</p>
11	<p>ひとりで坐位をとれる</p> <p>〔8〕</p>	<p>1. 子どもをあおむけに寝かせる。頭をもち上げるように励まし、片方の肩を床から浮かし、体を捻ってお坐りになるように手伝う。もち上げた方の子どもの腕を握って、斜めに引き起こしてやると、子どもは半分だけ坐位になった姿勢をとっている。</p> <p>2. 次に体がまっすぐになるまで両手を使って体を押し上げて坐位になるように手伝う。</p>
12	<p>坐位から腹ばいにひとりでなる(1)</p> <p>〔9〕</p>	<p>1. 子どもを坐位にする。</p> <p>2. 子どもの上体を横にむけ、両手を体の横で支えさせる。</p> <p>3. 子どもの好きなオモチャを見せ、2の位置から坐位に体をもどすよう励ます。</p> <p>4. 左右、両方向とも練習する。</p>
13	<p>坐位から腹ばいにひとりでなる(2)</p> <p>〔9〕</p>	<p>1. 子どもを坐位にする。</p> <p>2. 子どもの好きなオモチャを子どもの前方の正面からはずれた一方の、子どもがすぐに手を伸ばして取れない所に見せる。</p> <p>3. 子どもがオモチャの方に手を伸ばし、上体を手で支えて前にかがみ、ついには腹ばいになるよう励ます。</p>
14	<p>支えられなくても、あるいは自分の手で支えなくても、少なくとも10分間坐位を保つ</p> <p>〔10〕</p>	<p>1. 子どもの両手を支えに使わないで、両手でオモチャをもって遊ばせる。</p> <p>2. 前方、または左右からオモチャを差し出して、手を伸ばしてオモチャを受け取らせる。この動作は重心の移動の練習に役立つ。</p> <p>3. 大きなオモチャ（ビーチボール、大きな風船、ぬいぐるみなどの動物）</p>

		を差し出し、両手でそれを受け取らせる。また、体をひねってオモチャを受け取らせる。
15	小さな椅子を見せるとひとりで坐る [17]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 背もたれと両腕のある椅子を使うこと。 2. 椅子の前に、すぐ腰かけられるように立たせる。 3. 膝を曲げ、肩の所を支えてやって坐位になるよう導く。 4. ひとりで坐れるように、少しずつ援助を減らしていく。 5. 坐っている間は、子どもが遊べるようにオモチャを渡してやる。 6. 肘かけのない椅子、背もたれのない椅子に、徐々に慣らしていく。
16	合図されてから1分以内に大人用の椅子にのぼる [18]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大人用の椅子の上に、子どもの好きなオモチャを1つ置く。 2. 子どもの注意をひいて、のぼるように励ます。

はいはい

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	手足でける動きをする 〔1〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをあおむけに寝かせる。子どもの膝と踵をもち、踵を押さえながら、膝を屈伸させる。両脚について行なう。 2. 子どもの肘と手の平をもち、肘を屈伸させる。 3. まっすぐ伸ばすために手足に重りを結びつける。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モビールなどを前に置いて、足や手を伸ばそうとする気持ちを引き出す。 2. 手足に鈴などを結びつけて、動くとき音がするようにして動かそうとする気持ちを引き出す。
2	はいはいの動き 〔1〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. うつぶせに寝かせると、はいはいの動きをする。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. もし、上記の動きをしない時、手足を屈伸させてあげて、水泳のように動かすよう励ます。
3	足を床につけ、腕で支えて胸を上げる 〔2〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをうつぶせにして、眼の位置にオモチャを置き、できるだけ上にあげてゆき、その状態を保つようにする。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小さな枕か、巻いたタオルを子どもの胸の下に入れる。 2. 片手で子どもの肋骨を支えてあげる。
4	はいはいの姿勢で手を伸ばす 片方の手で上体を支えて他方の手をオモチャに伸ばし、それをつかむ 〔6〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを毛布の上のうつぶせにして物を示し、「○○ちゃん、取ってごらん。」と話しかける。 2. 始めは、手の届く所に物を置き、次第に離していき、6cm位腕の長さより遠くする。 3. 左右、両方とも練習する。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに提示する物は、動く物の方がよい。 2. 1日に10回ずつ練習する。
5	腹をつけてはう 〔7〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを腹ばいにし、手の届かない所に子どもの気に入るオモチャを置いて、取るように勧める。 2. オモチャを子どもから徐々に離していき、最後は60cm位離れた所に置かれた物も取るようにする。 3. 1日10回ずつ練習する。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの左右各々の足の裏に手を添えて押してあげる。 2. いろいろなオモチャや、子どもの気に入りそうな動物やビンなどを用意する。 3. 子どもがはい始めたらはめてあげる。
6	腹を床から離して這う 〔7〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 両手と両膝で身体を支えたはう姿勢をとらせ、子どもから少し離れた場所に、気に入りそうな物を置く。 2. 1日10回ずつ練習する。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 始めは、子どもの腹下にタオルか枕などを入れて、支えてあげる。 2. 次に、腕を差し入れて支えてやり、次第に力を強めていき、子どもがひとりではうようにする。 3. 子どもの気に入っているオモチャをいろいろ置いてみる。
7	はって階段を昇り降りする 〔14〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 床のオモチャを全部片付け、子どもの一段上、または一段下に気に入っているオモチャを置き、それを取りに行くように励ます。 2. 子どもが、後ろむきに脚から階段を降りても普通のことである。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要なら、子どもの胸の下を手で支えてあげる。 2. 階段がない時、クッション、スツケース、箱などを代わりに使う。階段の高さは、15cm以下の方が安全なので高過ぎないようにする。

寝返り

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	横向きに寝た位置から、 あおむけに寝返りをする 〔2〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを横向きに寝かせる。子どもの顔を上になった肩の方向にまわしてあげる。子どもの顔をゆっくりと動かし続けると、体も頭の動きと一緒に動いてあおむけに転がる。反対側へも同様な方法で寝返りさせる。 2. 子どもを横向きに寝かせる。光や鈴、ガラガラに注意を向けさせる。それを追わせてあおむけになるように誘う。反対側も一緒に行なう。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 音の出るおもちゃや母親の声で誘って顔を向けさせる。 子どもが寝返ることができたら、軽くこすったり、抱き上げてほめる。
2	あおむけから横向きになる 〔4〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをあおむけに寝かせる。 2. 子どもからみて一方の側におもちゃなど興味をひくものをみせ、それに手を伸ばそうとさせる。 3. その時、向こうとする方向に片足を交叉するのを曲げて手伝う。
3	うつぶせからあおむけに 寝返りをする(1) 〔4〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを横向きに寝かせる。 2. 子どもの顔を上になった肩の方へゆっくりと向ける。子どもは顔が向いた方へと寝返りをする(重力が転がることを容易にしている)。 3. 左右両方向とも練習する。(注意:多くのダウン症児はうつぶせになる機会が少ないので、あおむけになることを援助しすぎないように)
4	うつぶせからあおむけに 寝返りをする(2) 〔4〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをうつぶせにして転がらせようとする方へ顔を向けてあげる。胸の下になる腕は、頭の上の方へ引き出してあげる。 2. 次に、太ももと膝を握って足を曲げてゆっくりとあおむけに転がす。 3. 左右、両方向とも練習する。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝返りを手伝ってあげる時に、子どもが横向きになったら、手伝うのを中止して、自らあおむけになるように励ます。 2. うつぶせに寝かせて、あおむけになるようにおもちゃや乳ビンで誘うのもよい。
5	あおむけからうつぶせに 寝返りをする(1) 〔4〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをあおむけに寝かせ、片方の股関節と膝関節を曲げてお腹の上を斜めに横切るように動かす。股関節を十分に斜め前に出した後、子どもが体をひねって寝返りを始めるまでは赤ちゃんの肩を後方に押さえておく。 2. 左右、両方向とも練習する。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもがひとりで寝返りを完全に行なうよう励ます。 2. 寝返りの始めに手伝う介助の量を減らしてゆく。
6	あおむけからうつぶせに 寝返りをする(2) 〔5〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが体を横切っておもちゃに手を伸ばすように誘う。 体をひねって寝返りを始めるまで、腰を押さえておく。 2. 寝返りを始めたら、腰の押さえを放して、腰から転がって完全に寝返りを行なわせる。 3. 一方向に連続して寝返りをするようにおもちゃで誘う。 4. 左右、両方向とも練習する。

立 位

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	自分の体重を支える (4)	1. 平らな床で大人の前に胸を支えて立たせる。 2. 立っている時間を次第に長くしていく(1分間まで)。 <援助の方法> 1. 子どもが立ったままの姿勢を保てたら、笑ってほめてあげる。 2. もし、うまく立てない時には、子どもの両足に雑誌を丸めて結びつけてあげることで、固定してあげるとよい。
2	少しの支えで立っている (6)	1. 前に立たせて、支えを胸から手をもってあげるだけにまで減らしていく。手をもってあげると、1分間立っていられるようにする。 2. 1日10回ずつ練習する。 <援助の方法> 1. 少しの支えで立てたら、ほめてあげる。
3	家具につかまって立つ (8)	1. 子どもの腰位の高さの家具(長椅子、足台など)の前に立たせて、家具の上に子どもの気に入ったおもちゃを置く。 2. 1日10回ずつ練習する。 <援助の方法> 1. 子どもの気をひくために、動いたりするおもちゃがよい。 2. うまくつかまって立っていられたら、ほめてあげる。
4	手をひいてあげると立ちあがる (8)	1. 母親の前に子どもを膝まづいて坐らせる。 2. 子どもの手首を握って、「○○ちゃん、立ってごらん。」と言いながらひっぱってあげる。 <援助の方法> 1. 家具の上に子どもの気に入ったおもちゃを置いたり、家具に結びつけておく。
5	立位から身をかがめて坐る (9)	1. 子どもの好きなものを家具の高さから床に下げていき、それを取ろうと身をかがめて坐るよう子どもを励ます。
6	支えなしで1分間立っている (11)	1. 母親がしっかりと張って持っている約40cmのゴムホースや太いロープを子どもに持たせて立たせる。母親は子どもの手から少し離してホースを持ち、1.5cmから10cmまで離す長さを変えていく。 2. 母親の手のひらに子どもの手のひらをそえさせるか、母親の手の指を子どもに握らせて立たせる。 3. コーナーや壁を背にして子どもを立たせる。その際、子どもにおもちゃなどを持たせ、子どもが壁によりかからないで立つよう励ます。 4. 母親は椅子に坐り、子どもを膝の間に立たせ、母親が両膝を少しずつ開いていく。 1～5.のどの場合でも「○○ちゃん、立って」と言葉かけする。
7	支えなしで坐位から立ちあがる (13)	1. 子どもをしゃがんだ状態にし、子どもの頭上におもちゃを置いて立つよう励ます。 2. 子どもが高ばいを始めたなら、お尻や肩を支えて「立って」と声をかけ、立ち上がる練習をさせる。少しずつ、支えを減らしていく。
8	立っていて前かがみになり、起き上がる (16)	1. 床に厚い本やカタログを置き、子どもをかがませて、手をその上に置かせる。その状態から立ち上がるよう励ます。 2. 子どもが立っている足元に、子どもの好きなおもちゃを置いて、それを取らせる。
9	補助すると2～3秒間、片足で立つ (16)	1. 子どもに床に置いたはしご、ロープなどの障害物をまたがせる。 2. 踏むと音の出るおもちゃの上に片足を置かせる。 3. 母親の手の指を握らせて、片足を上げるよう励ます。 4. 子どもの足をくすぐったり、靴を見せるよう求めて、片足を上げるよう励ます。
10	片足で1秒間立つ (23)	1. 立位シート番号9の練習で、母親の助けを少しずつ減少させていき、全く助けなしでできるようにさせる。 2. 少しでもできたらほめてあげる。 3. 子どもの足元にシャボン玉を吹き、それを踏みつけさせる。

歩 行

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	胸を支えると、足ふみを始める (7)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの胸を支えて立たせる。 2. 足ふみをするよう励ます。もし、できなければ、子どもの脚をもって足ふみをさせてあげる。 3. 膝を曲げるような訓練をたくさんやらせる（子どもの上体を支えてやり、膝を曲げてとびあがらせる）。
2	家具につかまって歩きまわる (9)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを長椅子や座卓などの家具の前に立たせ、子どもの手の届かない位置に好きな物を置く。 2. 横歩きする時、足や腕を取って補助し、「○○ちゃん、あんよ。」と歩くように誘う。 3. オモチャにひもをつけ、それを左右に引っばって、子どもを歩きまわらせる。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2つの家具を間隔をおいて、直角あるいは並行に置き、その上にオモチャなどを置いて、子どもを一方の家具から他方の家具へつたい歩かさせる。ひとりで移れない時は補助してあげる。 2. 壁にむかって立たせ、壁に手をあてて、つたい歩かさせる。
3	支えられて歩く (9)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを立たせ、腰や尻を支えて1～2秒歩くよう励ます。 2. 次に、子どもの肩を後ろから支えて歩かせる。 3. 子どもの持つゴムホースを母親が持ってやり、歩かせる。 4. 子どもの胸の高さに差し出された母親の手のひらの上に子どもの手を重ねて歩かせる。
4	片手をひかれて歩く (12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの片手だけ支えて歩くよう励ます。 2. 左右、両方の手で練習する。もし必要なら自由な方の手にオモチャを持たせる。
5	支えなしで1人で歩く (12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの肩をしっかりと支えて歩かせる。 2. 「○○ちゃん、あんよ。」とことばかけして、肩の支えを指2本、指1本と次第に弱くしていき、ついにはひとりで歩かせる。 3. 子どもにゴムホースを片手で握らせ、母親は次第に離れた所を持って支えるようにしていき、ついには支えなしでひとりで歩かせる。 4. 子どもに母親の両手を握らせ、次に指だけを握らせ、次第に支えをなくしていき、ついにはひとりで歩かせる。
6	横歩き (14)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 椅子などの2つの家具の間に子どもを立たせ、横歩きするよう励ます。 2. 家具の間隔を次第に狭くしていき、子どもが横歩きせざるを得ないようにする。 3. 両親の間に子どもを立たせ、両親と一緒に横歩きさせる。
7	後ろ歩き (15)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母親が子どもに後ろ歩きの手本を示す。 2. オモチャに結びつけたヒモを引いて、後ろに下がるよう励ます。 3. 子どもが三輪車やバギーに手をつけている時、反対側から押してあげることで、後ずさりさせる。 4. 子どもと向き合って立ち、子どもの方へ前進することにより、子どもに後ずさりさせる。
8	手を持つと、階段を昇り降りする (17)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 階段が高すぎたら、本やブロックを用いて、子どもに合った高さに調節する。 2. 子どもの手をとって、階段を昇るよう励ます。できたら、ほうびをあげる。 3. できない時、片足を階段にのせ、もう一方の膝を曲げさせて昇るよう援助する。援助がいらなくなるよう、次第に力を弱くしていく。 4. マーチなどの音楽をかけて、そのリズムにあわせて、階段を昇り降りしてもよい。
9	手すりにつかまって階段を昇り降りする (17)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの前か後ろに立ち、子どもが昇ったり降りたりしたらほめる。 2. 子どもは片足を階段にのせ、次に、他方の足を同じ段にのせる方法で昇り降りする。

		3. 手すりが適切でないなら、壁に手をついて昇り降りさせる。
10	速歩き, ぎこちないが走る [18]	1. 速く歩く練習をさせる。 2. 子どもに母親の後を追いかけてさせる。
11	線上を歩く [24]	1. 床に幅15cm, 長さ2 mくらいの通路をテープやヒモでつくる。 2. 子どもに母親が通路を歩くのを見せ, まねさせる。 3. 子どもがだいたいまっすぐ歩けたらほめてあげる。
12	走る [24~]	1. 歩くのが走るのに変化するくらいまで, 速く歩かせる。 2. 障害物のない空間を豊富に与えて子どもに走らせる。

投げる

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	坐ってボールを投げる (12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもから60cm離れて、「○○ちゃん、こっちにボールを投げて」と言う。 2. 始めは、母親の方向にボールを放すだけで、ほめてあげる。 3. 練習を重ねて、次第に母親の所に届くようにさせる。 4. 投げる的として、浮輪や座布団などを用いてもよいし、兄弟を参加させるのもよい。
2	立って片手でボールを投げる (18)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもから60～90cm離れて、「○○ちゃん、こっちにボールを投げてごらん。」と言う。 2. 始めは、片手でボールを投げようとして、腕を上げ、上からボールを投げたらほめてあげる。後には、正確にボールを投げた時にだけほめてあげる。 3. 投げる的として輪や箱などを用意し、それに向かって投げるよう励ます。的に当たったか否かをすぐに子どもに教えてあげる。

けりと跳躍

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	大きなボールをけろうと近づいていく [20]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを椅子に坐らせ、ビーチボールのような軽いボールをけらせる。 2. ボールに近づいていき、ける方法を子どもに示す。 3. 子どもに「ボールをけてごらん」と言う。 4. ボールを転がしたら、ほほえんでほめてあげる。
2	まねをして大きなボールをける [20]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母親がビーチボールに近づいて行って、ボールをける。 2. 子どもに「ボールをけてごらん。」と言って励ます。 3. 成功したら、笑いかけたりほめたりする。
3	指示に従って大きなボールをける [20]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母親はボールをける動作を見せないで、「○○ちゃん、ボールをけてごらん。」と言う。 2. ビーチボールやその他のボールなど、適切な物をけた時だけほめてあげる。家具や人などをけらないように教える。
4	両足を揃えて、跳びあがる [23]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母親が「とびましょ。」と言って、楽しそうにとびあがってみせる。 2. 子どもができなかったら、子どもの腋の下に手を入れたり、子どもの手をもったりして、一緒にとびあがる。 3. ひとりでとびあがるようにする。この時、音楽をかけるとよい。
5	階段から一段跳び降りる [24]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母親が段の上に立ち、跳び降りてみせる。 2. 子どもの手を持って一緒に跳び降りるよう励ます。 3. ひとりで跳び降りるよう励ます。 4. 適切な階段がない時、箱やスーツケースなどを用いる。 床や階段は、すべらないよう、安全なものにする。

視 覚

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	顔の正面から25～30cm離れた物をじっと見つめ、わずかな物の移動を目で追う 〔0〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母親は、子どもが見える所において、子どもの注意が母親の方に向いたら、話しかけたり、表情を変えてみたりする。 2. 子どもに見えるように、ベビーベッドの上や柵にオモチャや絵などをつり下げる。絵は頻繁に取りかえ、雑誌の頁、包装用紙、カレンダーの絵を利用し、斜線デザインや矢の標的のデザインも使ってみる。 3. 模様入りのシーツや毛布を使ってみる。 4. 子どもの周囲の照明（明暗）を変える。
2	顔の前で水平に、垂直に円を描いて動く物を目で追う 〔3〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが母親を見た時、母親は顔を右から左、左から右、上から下、下から上、あるいは円を描いて動かす。子どもが母親の顔を目で追うように励ます。 2. 子どもの目が正面を見ている時に、子どもの興味をひく物を軽く振って注意をひきつける。子どもがその物を見たら、それをゆっくりと水平に、垂直に、円を描いて動かし目で追うように励ます。 3. 子どもの視覚領域内で、しかもゆっくりと動かす。
3	物を見せると正面から側面へ動く物を目で追う 〔2〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの好きなオモチャ、または紙製の風車、懐中電灯のような鮮やかな色で光沢のある物、時には音のする物を使う。見せる物をいろいろ変化させる。 2. 子どもをおお向けに寝かすか支えて坐らせる。 3. 子どもの顔の正面から25～30cm離して、子どもの好きな物を見せる。軽く振ったり、音をたてたりして注意をひく。 4. 「〇〇ちゃん、見てごらん。」と言ってゆっくり側面へ物を動かす。目をそらしたら、中止して始めからやり直す。 5. 正面から左右両側へ物を動かし、できたらほめる。
4	物を見せると右側から左側へ、あるいは左側から右側へ動く物を目で追う 〔3〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚シート番号3.と同一。 2. 視覚シート番号3.と同一。 3. 子どもの顔から25～30cm離れた右側か左側に子どもの好きな物を見せる。軽く振ったり、音をたてたりして注意をひく。 4. 「〇〇ちゃん、見てごらん。」と言って右側から左側へゆっくり動かす。目をそらしたら中止して、始めからやり直す。 5. 左右両側へ物を動かし、できたらほめる。
5	第2の物が見せられたら2～3秒以内に、最初に見せられた物から目を移す 〔3〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーブルに向かって、親の膝の上に子どもを抱いて坐らせる。 2. 1つの物を見せて、2～3秒後に他の物を見せる。 3. 最初の物から、第2の物へ、子どもの目が移るように第2の物を動かしたり、音をさせたりする。 4. ガラガラやベルのように、明るくて、輝いている物のように、子どもが興味をもつような物を見せる。
6	小さい物を10秒間続けて見る 〔4〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをテーブルに向かって、母親の膝に抱いて坐らせる。 2. 2～3cmの積木やボール、ボタン、豆粒などをテーブルの上に置く。 3. 10秒間、あるいはそれ以上の間、続けて物を見るように、ことばかけして促す。 4. 最初は、明るい色のボールや積木を見せ、次第に豆のような小さくて目立ちにくい物に変えていく。

手をのばす

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	物に届かなくても、物の方に手を伸ばし、力いっぱいにたく動きをする 〔3〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの手のところに、大きさ、形、色、材質等が異なる種々の物を置く。 2. 子どもが手を伸ばしたらほめる。 3. 手を伸ばして届くことをすすめるために、ベビーベッドの子どもの手の届く範囲内に、モビール、オモチャ等をつるす。
2	手の届くところに置かれた物に手を伸ばしてさわ る。 〔4〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども用椅子に坐らせるか、椅子やソファに支える。 2. ガラガラやベルなど子どもの好む物を使う。 3. 物を見せて、「○○ちゃん、手を伸ばして取ってごらん。」と言う。子どもの興味をひくように、物をゆり動かす。 4. 手を伸ばして届いたらほめて、それで遊びたがったら遊ばせる。 5. 物を置く場所を変化させる。
3	左右の手に二つの物をも つ 〔5〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに小さい物を見せて、それに手を伸ばして握り、持っているようにすすめる。 2. 子どもの好きな小さくて握れるような他の物を他方の手に示す。 3. 最初につかんだものを持ちながら、次の物に手を伸ばしたり、触れたりしたら、子どもをほめる。

握 る

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	手のひらにのせられたガラガラを握っている (2)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの手のひらにガラガラをのせる。 2. 物の周囲に子どもの手を閉じさせ、持つように子どもを助ける。 3. 最初に持たせるガラガラは、握りやすいものがよい。 また握る方向に関係なく子どもが容易に握れて、握っている間に偶然手を動かしたら音がするようなガラガラを選ぶ。
2	日中の活動の間、手を握らず開いている (3)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと遊んでいる間に、握りこぶしを開いてあげる。子どもの手のひらにガラガラやコルク栓などの小さい物をのせてあげて、子どもの手を開くようにする。 2. 指を伸ばすように、子どもの手の甲をなでてやる。 3. 使う物として、手ざわりの良い物を選ぶ。
3	積木を手にしたせると手のひらを使って握る (3～4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一辺が2～3cmの積木、あるいは同じ位の大きさの物や、母親の指を子どもの手のひらにのせる。 2. 握るのがむずかしいなら、母親が手を添えて子どもの手を物の周囲に触れさせ、握らせてやる。 3. 母親の指を子どもの手のひらの真中ののせて、子どもの手のひらを軽く押してやり、握るのを助ける。
4	子指、薬指、中指の3本を使って、自発的に物を握る (3～5)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが小指側の3本の指で、母親の指を握るよう励ます。 2. できない場合、母親が子どもの指を軽く閉じさせて握るのを手伝う。
5	親指と人差し指、中指、手のひらの一部で、物を握る (3～5)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに柔らかいゴムやスポンジや木の積木、お手玉などを与えて、親指と人差し指を使って握るように励ます。
6	手のひらを使わずに、親指と向きあう4本指とで、小さい物をつかむ (5)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 種々の手ざわりのよい小さな物を子どもに与えて、つかむ練習をさせる。 2. 飲みこんでしまわないように、母親が傍にいる時だけ与える。
7	小さい物を自分の方にもってくるのに、手ですくったり、かき集めたりする (6)	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーブルの上に、小さい物(干しブドウ、バターボーロなど)を置く。 2. 子どもが目標行動を始めなかったら、母親が子どもの手を取って、くま手のように物をかき集めて、子どもの方に近づけるよう、手を動かしてあげる。 3. ひとりで行なうよう、ことばかけて励ます。
8	親指と人差し指と中指の3本で物をつまむ (8)	<ol style="list-style-type: none"> 1. レーズン、小さく切ったチーズ、コーンフレーク、バターボーロ、豆類ボタンなどの小さい物を子どもの前に置く。 2. 母親が小さい物をつまんで、つまみ方を教える。子どもにもつまみ上げるようすすめる。 3. 母親の指でつまんで子どもに与えると、子どもは目標のようなつまみ方をしやすい。 4. 口に入れて飲みこむと危険な物を使う時は、必ず母親が傍についている。
9	親指と人差し指で物をつまむ (9～10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに、握るシート番号8で用いたような小さな物を与える。動機づけを高めるために、1度に1個与える。 2. 最初は、たやすくつまめるように表面がざらざらした物を与える。その後、表面がなめらかな物に変えていく。 3. ひもやつまみのついている物(ひもや毛糸のついた風船、つまみのついたブロック)を使うのもよい。 4. かなり小さい物でも、親指と人差し指で、ピンセットのようにつまめるようになるまで練習を続ける。

物の操作 I

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	1日に数回、両手をあわせたり、指で遊んだり、指を見たりする (2～3)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 明るい色のゴムを輪にして子どもの両手にかけて、手をあわせさせる（ゴム輪に鈴をしっかりととりつけてもよい）。 2. 「せっせっせ」のような遊びを母親がさせてあげて、たびたび子どもの両手をあわせてやる。 3. 子どもの手にリボンを結びつけて、自分の手に注意をひかせる。手が見えるように上にあげさせ、見つめさせる。
2	新しい物が与えられると、手でさわったり、口にもっていったりして、探索する (4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 使う物は、種々の材料で作られた手ざわりの異なるボールやスカーフ、鍋、スプーン、コップ、皿などの日常用品、プラスチックの輪や糸巻き、紙やひも等である。 2. 上記の物を子どもに見せたり与えたりする。 3. ひもで物をぶら下げて、つかむようにすすめる。 4. 紙やひもは、ひらひらさせたり、振ったりして遊び方を示す。 5. オモチャを子どもと引っぱりっこして遊ぶ。
3	小さい物が両手にのせられると、5秒間各々の手で物を握っている (4～5)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの両手に各々、小さい物をのせる。子どもが物を握っている間、ほめる。 2. 使う物は、2～3 cmの積木、ボール、糸巻き、コルク栓、ガラガラ等である。
4	一方の手にもっている物を他方の手に持ちかえる (5～6)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 両手をあわせるゲーム（「せっせっせ」など）をする。 2. 子どもが身体の正面で両手で物を持つことに慣れるようになるために、一方の手で持つには大きすぎて、両手で持たざるをえないような物を与える。 3. 子どもが1つのオモチャを、他方の手にもちかえなければならないように、1つのオモチャを子どもに与え、次に別のオモチャを与える。 4. 右手から左手へ、左手から右手へ、両方向のもちかえを練習させる。
5	自分の前のテーブルか床に同時に置かれた2つの物をつまみ上げる (6)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを膝やベビー椅子に、あるいは支えて床に坐らせて、2つの小さい物を子どもの前に置く。 2. 同時に両方の物をつまみ上げて、握っているように促す。 3. 子どもがつまんだり握ったりしたくなるように、子どもの好きな握りやすい物を使う。物を母親が握ったり、動かしたりして興味をひく。
6	自分の前のテーブルか床に同時に置かれた3つの物をつまみ上げる (6～7)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物の操作 I シート番号 5 と同一。 2. 両手に各々物を握った時に、3つ目の物を見せて、一方の手で2つを持ち、他方の手で1つを持つように促す。 3. 3ができれば、同時に3つの物を見せて持つように促す。
7	2つの積木を打ち合わせ (8～9)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2～3 cmの積み木、スプーン、糸巻きのような、打ちつけると音のする小さい物を子どもに与える。 2. 子どもが2つの積み木を打ちあわせたらほめる。 <p><援助の方法></p> <p>できない場合、援助してやり、次第に援助を減らしていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもの手の上に母親の手を添える。 ② 子どもの手首に母親の手を添える。 ③ 子どもの前腕に母親の手を添える。 ④ 最初だけ、子どもの肘に軽く触れる。 ⑤ 子どもが1人で行なう。
8	容器の中に手を入れ30秒以内にその中のものを取り出す (9)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 床か子ども用椅子に坐らせ、子どもの前に子どもの好きな小さい物を入れた容器を置く。 2. 容器に手を入れて、小さい物を取り出したらほめる。 3. 容器は次のような順序で次第に小さくしていく。 <ol style="list-style-type: none"> ① 大きいボウル ② 中くらいのボウル ③ 小さいボウル ④ コップ 4. 容器はこわれにくいボウル、コップ、箱、カンがよく、2～3 cmの積木やボール、せんたくバサミなどを中に入れる。

		<p><援助の方法> 物の操作Ⅰシート番号7と同一。</p>
9	容器の中へ物を入れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの前に容器と小さい物（つみ木やせんたくバサミ）を置く。 2. 容器に物を入れたらほめる。 3. しだいに容器を小さくし、入れる物の数を増やしていく。
10	型はめ板から円形の木型をはずす (9～10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 単純な型はめ板（正三角形、正方形、円形などの簡単な型はめ板）を用意する。市販のものがなければ、厚紙か木で作り、木型を型はめ板の表面より少し高くなるように作るか、取っ手やつまみをつける。 2. 子どもの前に型はめ板を置いて、円形の木型をはずすよう促し、できたらほめる。 3. 必要なら、1枚の円形の木型以外はテープでとめる。
11	ベグボードからベグを抜く (9～10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 数種類のベグボードを用意する。 握るための大きいつまみのあるベグ直径1.5cm位の太いベグなど、市販のものが無い場合、作ったり改良したりする。 2. ベグを抜きとるために援助が必要な時は援助し、ひとりで行えるようになるまで練習する。
12	棒に輪を入れる (11)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 輪と棒を用意する。棒は、木製の基盤に棒をさし込んだもの。輪は、プラスチックか金属製のプレスレットなどを用いる。 2. 輪を次第に小さくしていき、ゆっくり時間をかけてむずかしくしていく。 <p><援助の方法> 物の操作Ⅰシート番号7と同一。</p>
13	ミニカーを与えると、それを押す (11)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの手の大きさで、押しやすく、部品がはずれにくく、とがったところのない安全で、車輪のあるおもちゃの車を与える。 2. 子どもに車をどのように押すのか、楽しいゲームにして見せてやる。「ブーブー、ブルーン」などの音声を入れて押してやる。 3. 車を押して、まねをしようとしたらほめる。 4. 必要なら、子どもの手の上に、母親の手を添えて援助する。
14	ベグが与えられるとベグボードにベグを1本さしてむ (13)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをテーブルの前か床に坐らせる。母親は子どものわきか後ろに坐る。 2. ベグをどのようにベグボードにさしてむかをやってみせる。 3. ベグの穴を指さしながら、子どもにベグを与えて「○○ちゃん、入れてごらん。」と促す。 4. 最初、大きくて太いベグで行ない、できたら小さくて細いベグに変える。できたらほめる。 <p><援助の方法> 物の操作Ⅰシート番号7の②～⑥と同一。</p>
15	容器の中へ、フタの穴から小さい物を入れる (13)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをテーブルに向かってか、床に坐らせ、容器を与える。 2. 容器のフタにあいている穴から、どのようにして小さい物を入れるのかを子どもに見せる。 3. 小さい物を子どもに持たせて「○○ちゃん、入れてごらん。」と言葉かけする。できたらほめる。 4. 容器は、子どもの興味を長く継続させるために、物を落とした時に音のするものがよい。缶、プラスチック、ポリプロピレンなどの容器を用いる。小さい物は、木製ビーズ、さいころ、ボタン、おもちゃのご石、プラスチックのビーズ、豆類などを用いる。 5. 小さい物を飲みこむと危険なので、身近かで大人が監督している時以外は子どもにさせない。入れないで物を投げたり、口に入れたりしたら、少しの間用具を取りさり子どもを無視する。その後、子どもがやりたがったら与える。
16	物の入っている容器が与えられると、中に入っている物を取り出すために容器を上下、横倒しにする (14)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬ビンのような口の小さいビンの中に、レーズン、豆粒、バターボーロなどの小さい物をいくつか入れる。 2. ビンを振って中に入っている物をガラガラ鳴らし、ビンを上下させて中の物を放り出すことを何度かやって子どもに見せる。その後、子どもにも口の中の出すよう促す。 3. 必要なら、容器を逆さにひっくり返すのを援助してやる。

17	6個の積木をコップに入れて、それから出す (14)	<ol style="list-style-type: none"> 1. こわれにくい容器（コップ、小さい缶など）と中に入れる小さい物（さいころ、コルク栓、小さいボール、ボタンなどを約10個）を子どもの前に置く。 2. 母親がこの活動をやって見せ、「○○ちゃんも、やってみよう。」と促す。
18	型はめ板の円形の木型をはめこむ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物の操作Ⅰシート番号10と同一の型はめ板を用意する。 2. テーブルに向かってか床の親のそばに子どもを坐らせ、型はめ板を与える。 3. 母親が円形の木型をはめたり、はずしたりして子どもに見せる。その後、「○○ちゃん、入れてごらん。」と促す。できたらほめる。 <p><援助の方法> 物の操作Ⅰシート番号7の②～⑤と同一。</p>
19	積み木を2個つむ (14)	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーブルに向かってまたは床に子どもを坐らせる。 2. 積み木を2個与える。 3. どのように積み重ねるかを子どもに見せてから、積み木を1つ子どもに手渡し、「○○ちゃん、置いてごらん。」と言いながら、他の積み木の上部を指さす。 4. 適切に積んだら子どもをほめる。 5. 子どもが積み木を投げたら、取り去ってしばらく待ってから、又与える。数度積み木を投げたら、中止して、他の時にやってみる。 6. 次の順序でだいに積み木を小さくしていく。 ① 10cmの箱か積み木 ② 5cmの積み木 ③ 2～3cmの積み木 <p><援助の方法> 物の操作Ⅰシート番号7の②～⑤と同一。</p>
20	丸い箱のフタをする (16)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 丸い箱と箱のフタを子どもに与える（子どもが扱いやすい大きさで、フタがきつすぎないような箱や缶）。 2. 母親が箱にフタをして子どもに見せ、「○○ちゃん、フタをしてごらん。」と促す。できたら、ほめる。 3. ボットやなべでもフタをさせてみる。
21	ベグボードにベグを全部さしこむ (17)	物の操作Ⅰシート番号14と同一の方法でベグの数を増やす。
22	積み木を3～4個つむ (17)	物の操作Ⅰシート番号19と同一の方法で、積み木を3～4個に増やす。
23	丸いカップを重ねる (18)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市販の丸い形のカップを子どもに与える。 2. 母親がカップを重ね合わせて子どもに見せ、子どもにも重ねるように促す。 3. できたらほめる。カップの数が多くてむずかしい場合、大、中、小3個位のカップで練習する。3個でできれば、奇数あるいは偶数順の大きさのカップで、その後全部のカップでというように次第にむずかしくしていく。
24	型はめ板に、3種類の木型の中から円形を取り出してはめこむ (18)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正三角形、正方形、円形の木型のある型はめ板の円形以外のところを厚紙でおおい隠す。 2. 3種類の木型の中から、円形を選んではめこむ活動を母親がやって見せて、「○○ちゃん、丸いの入れてごらん。」と促す。 3. 円のまわりや型はめ板の丸い輪郭を子どもの指でなどらせる。 4. 円形を正しく選んでほめ込めるようになったら、正方形や正三角形も加えて練習する。
25	型はめ板に、3種類の木型をはめこむ (21)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正三角形、正方形、円形の木型のある型はめ板を子どもに与える。 2. 母親が3種類の木型をはめこんで見せ、子どもにもはめてみるように励ます。 3. 各々の形の木型と型はめ板の輪郭を子どもの指でなどらせる。 4. 全と同じ型はめ板に木型をはめたものを見本に見せ、それを真似てはめこませる。
26	積み木を5～7個つむ (23)	物の操作Ⅰシート番号19と同一の方法で、積み木を5～7個に増やす。
27	四角形の箱のフタをする (23)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正方形や長方形の箱（子どもが扱える大きさでフタのきつすぎないもの）のフタをしりあげたりして子どもに見せる。

		2. 子どもにも箱とフタをえて、フタをするよう励ます。できたらほめる。
28	四角形のカップを重ねる (24)	物の操作Ⅰシート番号23と同様の方法で、四角形のカップを用いて行なう。
29	10～12個の積み木を全部 しまいくむ (24)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 10個（2列に5個ずつ入る箱）、あるいは12個（3列に4個ずつ、2列に6個ずつ入る箱）の積み木（立方体）がちょうど入る箱と積み木を用意する。 2. ばらばらの積み木を箱の中に1個ずつめる活動を子どもに見せる。子どもにもやってみるように促す。 3. 必要なら手伝ってやり、次第に援助をなくす。

物の操作Ⅱ

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	本のページをめくるのを手伝う [12]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが、親がページをめくる時に手伝おうとしないなら、どのようにめくるかを子どもに見せる。次に、ページの上に子どもの手を置いて、親がページをめくる。 2. 次のページに新しい絵のあるような厚い紙の本を使う。 3. 丈夫で明るい絵のある本を選ぶ。絵は、実物そっくりに書かれたものがよく、絵を命名することを教える時に、このような本は非常に適している。
2	なぐりがきをする [14]	<ol style="list-style-type: none"> 1. クレヨンやフェルトペンでなぐりがきしているところを子どもに見せ、子どもにもクレヨンかフェルトペンを渡し、子どもの手をとってなぐりがきを教える。 2. 次第に手伝うのを減らしていく。子どもがかいたものは何でもほめる。 3. 子どもが紙で遊ばないように、包装紙の裏や模造紙のような大きい紙をテープで机にとめておく。壁や家具にかくのではなく、紙にかくことを教える。 4. 絵具のついたための筆を与えたり、フィンガーペインティングをするなど、かくことを楽しませる。
3	直線がきをまねる [18]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 親が紙に何かをかく。子どもが既にかける線、直線（横か縦の直線）のように簡単な線を大きく紙にかいてあげる。 2. 「○○ちゃんもやってみよう。」と子どもにもかくことをすすめる。 3. 子どもがかこうとしたらほめる。親のかいたものを完全に模倣することを期待せずに、大体同じ方向へペンを動かすように教える。 4. 筆や紙は物の操作Ⅱシート番号2と同一。 5. かくことが好きになるように、援助はできるだけ除去し、「ブーブー」とか「シュー」など言いながらかいてみせる。
4	1度に1ページずつひとりで本をめくる [24]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 厚手の紙を使った、丈夫な本を子どもに与える。 2. ページをめくる練習をして、ページをもみくちゃにすることよりも、絵をみることに興味をもつようになったら、それ程厚くない紙を使った本を与えてみる。 3. 1度に1ページめくったら、子どもをほめる。 4. 子どもに絵について話してあげる。絵の中の人や物を指さして「これは○○なのよ」と教えてやり、子どもにも「○○はどれかな」と指さしをさせる。
5	横線、縦線、円をまねてかく [24]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 横線、縦線、円を模倣させる。 2. 指で横線、縦線、円をたどらせる。直線と曲線の違いを理解させる。 3. 子どもが、親のかいたものとよく似た線かけになるまで、どんどんかかせる。 4. 母親は、ことばをはさみながらかいて（例えば、「車がブーブー」と言いながら横線、「雨がジャー」と言いながら縦線、「まーあるーいよ」と言いながら円など）、子どもに印象づけ、子どもがかきたくなるような楽しい雰囲気をつくる。 5. 紙の色やクレヨン、フェルトペンの色を時々変える。

問題解決

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	輪に結びつけられているひもを引く (6)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大きいプラスチックの輪かプレスレット、あるいは子どもの好きなオモチャにひもを結びつける。 2. 子どもがその物を手にとるために、ひもをひっぱらなければならないように、テーブルの上にひもを横たえておいて子どもに見せる。 3. 必要なら、ひもをひっぱって物を手もとに引きよせて、手にとる方法をやってみせる。
2	落ちた物を探す (6)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをテーブルに向かって、母親の膝に坐らせる。 2. テーブルの上で、まっすぐに、ゆっくりとスプーンを動かして行って、スプーンを床に落とす。 3. 最初は、物が落ちる時、音をたてるようにカーベットの敷かれていない室でやってみる。 4. 子どもが落ちた物を探すかどうか注意する。 5. 使用する物を変えて、種々の状況でやってみる。 6. 子どもと「いない、いないばあ」や「かくれんぼ」をして遊んでみる。 7. 子どもがもし、探すようなら、母親の顔や物を隠して捜させる。 8. 風呂の湯の中へ物を落としてみる。はねかえりの音（ぼちゃ、ざぶん、など）がするので、子どもが物を落ちた方々を向くのを助ける。 9. ベビーイスの側面から、ひもをつけておいたオモチャを落とす。それから、子どもに見えるように引っぱりあげる。
3	物が提示されてから30秒以内に、おおいを持ち上げて、隠された物を見つける (8)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 逆さにしたコップ、ボール、小さい箱の下に、子どもの好む小さい物を隠す。 2. 子どもに隠す物と、それを隠しているところを見せる。 3. 子どもに「〇〇はどこかな」とことばかけし、隠した物を見つけるために、容器を持ち上げるようにすすめる。 4. 最初、物を部分的に隠し、その後、次第に完全に隠すようにする。子どもが見つけたら「あった」と大げさによるこんでやる。 5. 手に物を隠す。子どもにそっとのぞかせて、指を閉じる。 6. 子どもが、物を見つけれられるかどうかやってみる。 7. 物の前に本かスクリーンを置く。子どもがそのあたりに手を伸ばすかどうかやってみる。
4	オモチャを見つけるためにその上のおおいをとる (8)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビニールの風呂敷などの透明な布の下にオモチャを隠す。おおいを取るように子どもにすすめる。 2. 手ぬぐい、タオル、ハンカチ、おしめなどの下に、いろいろな物を隠して、子どもがそれらを見つけれられるかどうかをみる。 3. 子どもの注意をオモチャにひき、母親がそれを隠すところを見させる。
5	箱を与えると、物を見つけようとして箱をひっくり返す (10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 色、形、大きさがさまざまな、小さい箱をたくさん集めておく。 2. オハジキ、さいころ、豆、ボタン、積木、のような小さい物を箱の中に入れて、子どもの前で箱の周囲をたたいてガラガラ鳴らす。 3. 小さい物をすばやく出して、子どもに箱を手渡す。 4. 物を見つけようとして、子どもが箱を見たり、中をのぞきこんだりするかどうかをみる。
6	布に包んだ物を示すと、包みを解いて物を取り出す (11)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ティッシュペーパー、ペーパータオル、ハンカチ等に小さいオモチャや積木を包む。 2. 母親が物を包んでいるところを子どもに見せ、その後包みを解くように子どもにすすめる。 3. 最初は、たやすく解けるように物を部分的に包むだけにする。
7	箱のフタをする (12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに箱を手渡し、フタをとるようにすすめる。種々の形、大きさの箱を使う。 2. 子どもがフタをとりたくなるように、箱の中に子どもの大好きなオモチャあるいは食べ物を入れておく。 3. この活動のために、ふたつきの鍋なども使ってみる。
8	手の届かないところにあるオモチャを取るために	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーブルに向かって、または床に子どもを坐らせ、子どもの手の届かない所に、子どもの好きな小さくて軽いオモチャを置く。

	<p>棒を使ってオモチャを引きよせる</p> <p>(8)</p>	<p>2. 短い棒（30cm位の丸くて細い棒）で、オモチャを自分の方にひきよせる方法を示してあげる。</p> <p>3. 何回も母親がやって見せてから、子どもにもやらせる。子どもの好きなオモチャだけを使う。</p> <p>4. 必要なら、子どもを身体的に援助し、次第に手助けをやめる。</p> <p>5. 棒を使って子どもがオモチャを引きよせ手にしたらほめてやり、そのオモチャで遊ばせる。</p> <p>6. いろいろなオモチャや他の棒でもやってみる。手の届かないところにあるものを取るために、自分のまわりにあるものを利用できることを子どもに教えるのによい。</p> <p>7. 枕の上にオモチャを置いて、オモチャをとるために枕を自分の方へ引っぱる。あるいは、ひもが結びつけてある物の上にオモチャを置いてヒモを引っぱるなど、いろいろな情況で、この種の活動をさせてみる。</p>
9	<p>物の隠されているコップを選択する</p> <p>(20)</p>	<p>1. 2～3個のコップ、あるいは他の容器のうちのいずれか1個の下へ小さいオモチャを子どもの見ている前で隠す。10～30秒してから、オモチャの隠されているコップを選択させる。</p> <p>2. オモチャを隠す位置を毎回変えて、コップの数も変える。</p> <p>3. 子どもが注意を集中できなかったり、選択をまちがえるようなら、物を隠してから、選択するまでの間隔を短くする。</p> <p>4. 子どもが正しい選択をしたら、「〇〇あった」と大げさに子どもと一緒に喜んであげる。</p>

言語

表出言語

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	声を出す 〔1～2〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが声を出すように話しかける。入浴中、授乳中、おむつ交換、遊んでいる時などに子どもに話しかける。 2. 母親は、音の高低をつけて、簡単な音を含むことば（例えば、アブバ、アババ、〇〇ちゃん）を大げさに話しかける。 3. 子どもが声を出したら、体をさすったり、頬づりしたりしてほめてあげる。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが少しでも声を出したら、母親がまねしてやり、もう一度声を出すように励ます。 2. 子どもがお話しているように声を出している時、その中から一つの音を母親がまねしてやる。それをまた子どもがまねをする。 3. 子どもがまだ出すことのできない音と同じ方法で教える。 <p><記録の方法></p> <p>子どもの出した声を、「ア－ア」「オー－オー」のように記録する。</p>
2	声をたてて笑う 〔3〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体をゆすぶったり、頬づりしたりしてあやす。 2. 声を出して笑ったら、体を軽くたたいてほめてあげる。
3	2音節母音を発声する オーア、アーエ、アウア ウ、オエ 〔4〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母親が子どもに話しかける際に、2音節母音を多く用いる以外は、表出言語シート番号1と同様な方法で行なう。
4	ダ、バ、ガなどという 〔7〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母親が子どもに話しかける際に「ダ」「バ」「ガ」などの音を含むことばを多く話しかける以外は、表出言語シート番号1と同様な方法で行なう。
5	マママ、ダダダなど母音と子音が連なった音を出す 〔7〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと面と向き合って、母親が「マママ」「ダダダ」「バババ」などの発声を繰り返し、子どもがまねするように励ます。 2. 母親の出した音子を子どもがまねしたらほめてあげる。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母→子、子→母と繰り返し行なう。
6	簡単な動作を模倣する 〔8〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの前で簡単な動作をやってみせ、「やってごらん。」と言って、まねするように励ます。 2. まねができればほめてあげる。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活場面で子どもがやっている動作（机をたたく、相手をするなど）を、子どもがやった時、母親がそれをまねする。母親のまねを見て、再び子どもがまねをする。 子どもの動作→親がその動作をまねる→再び子どもが親の動作をまねる。 2. 母親が子どもに新しい動作をしてみせ、「〇〇ちゃん、やってごらん。」と言う。
7	他の人（母親など）の言った音声をまねる 〔8〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと向きあうように子どもを抱く。 2. 子どもが母親の顔を見つめている時、アー、エー、オーなどの母音や、マママ、ダダダ、バババ、パババと言ってやり、子どもがまねするように促す。 3. 1日数回行なう。 4. 子どもが出した声を、母親がまねして言う。 <p><記録の方法></p> <p>次のどれに該当するかを記入する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①まったく声が出ない。 ②母親の口を見つめる。 ③まねしようとして口を動かすが、声は出ない。 ④一部分まねをする。 ⑤完全にまねをする。
8	泣かないで、自分の要求を表わす（泣きではなく声や動作で自分の要求を示そうとする）〔9〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが何か欲しい時、数日間子どもを観察し、次のどの段階にいるか明らかにする。 <ol style="list-style-type: none"> ①欲しい物を見る ②ジェスチャーをする（指さす） ③声を出す ④ことばを言う

		<p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが欲しい物を見た時、「何が欲しいの」と言い、それを指さし、名前を言ってあげる。子どもが動作で反応するようにさせる。 2. ジェスチャーで物を欲しがったら、「何がほしいの?」と言い、その物を指さし、名前を教える。次に名前の最初の音だけ言い、子どもにその音をまねさせる。
9	動物の鳴き声をまねする (10)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 動物のおモチャを見せて、動物の名前を教え、その鳴き声をまねしてみせる。 2. 子どもがまねするように呼びかける。 <p><記録の方法></p> <p>次のどれに該当するかを記入する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全然反応なし ② 興味を示し、まねをしようとするが、声が出ない。 ③ 鳴き声をまねる。
10	ことばをまねする (11)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表出言語シート番号7と同一。 2. 表出言語シート番号7の、①、②ができていない段階では、③子どもの知っている単語で同様に行なう。 3. 1日数回行なう。 4. 声が出たらほめてあげる。 <p><記録の方法></p> <p>表出言語シート番号7と同一。</p>
11	意味のあることばをいくつか言う、音声からことばにする (12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの言える音が始めにあることばを選ぶ。まず第1の音を言わせる。次に、第1の音と第2の音を言わせ、その次に第1、第2、第3の音を言わせる。 <p>(例) 子どもが「ボ」という音を出せる時、教えることばを「ボウル」とする。まず始めに「ボ」、次に「ボウ」、その次に「ボウル」と言うように訓練する。</p>
12	物の名前を言う (13)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1つの物を子どもの前に見せる。子どもの気が散らないように不要な物は取り除く。 2. 母親がその物を子どもに見せて「これは何ですか?」「これは〇〇ですね。」と教えてあげる。 3. 同じように子どもに物を見せて、「これは何?」と尋ねて、子どもが名前を言えるように励ます。 4. 名前を言えた時には、ほめてあげる。 5. 一度にあまり多くの物を教えない。 <p><記録の方法></p> <p>耳、手、目、口、足、スプーン、コップ、牛乳、みかん、バナナ、時計などの項目について、名前が言えた日付を記入する。</p>
13	「これは何?」と尋ねると絵の名前を言う (14)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絵本や絵カードを用いて、日常見なれている事物を指さしながら「これは何?」と尋ねる。 2. 子どもが答えられなかったら、「これは〇〇ね。」と教える。物の呼び方はいつも同じにして、一貫性をもたせる。 3. 1度にあまり多くの物を教えず、子どもが確実に物の名を言えるようになるまで練習する。 4. 名前を言えた時には、ほめてあげる。 5. 特定の絵本や絵カードで物の名前が言えるようになったら同じ事物が異なる色や大きさに描かれている絵でも行なう。 <p><記録の方法></p> <p>絵で事物の名前が言えたら、その項目と日付を記入する。</p>
14	ことばを言う (20語) (18)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活で子どもが頻々接する人や物に対して、母親が名前を言って聞かせる。子どもにも言うよう促す。 2. 子どもが言えない時、表出言語シート番号11と同様の方法で、言わせてみる。 3. 上記の方法で子どもが自発的に言えることばを増やす。
15	絵の名前を言う (5個) (24)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 表出言語シート番号13と同様の方法で、絵本や絵カードを用いて、日常見なれている事物を指さして子どもに命名させ、子どもが自発的に言うよ

		<p>うにし向けていく。</p> <p>2. 子どもが自発的に絵の名前を言ったら、「そう、〇〇ね。」と繰り返してから、はめる。</p>
16	<p>二語文を言う 「みかんほしい」「パパ かいしゃ」など二語文 が言えるようにする</p>	<p>1. 日常生活場面で、母親が二語文を使ってあげる。子どもから「みかん」と単語だけ言った時、母親が「みかんほしいの?」の様に、二語をつなぐ。</p> <p>2. 子どもが二語文を言えたら、「そうね、みかんほしいの。」と、母親がもう一度繰り返す。</p> <p><記録の方法> 子どもが二語文を言ったら、それを日付と共に記入する。</p>

受容言語

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	音に反応する 〔1〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの後ろで鈴をならしたり、ガラガラを振る。聞かせる音は、ガラガラ、拍手、笛、鈴などのさまざまな音や、音楽、歌（レコード）など。 2. 1日数回、子どもが目覚めている時行う。 <p>＜記録の方法＞ 次のうちのいずれの反応であるかをシートに記入する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全く反応なし。 ② 体の動きが止まったり、手足を動かしたりする。
2	人の声に反応する 〔1〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの顔と向き合って、母親が声かけする。 2. 子どもがどんな声でも出したら、軽く手をたたいたり、微笑んだりしてほめてやる。 3. 子どもが気嫌の良い時、1日数回行う。 <p>＜記録の方法＞ 次のうちのいずれであるかをシートに記入する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全然反応なし ② 母親の目、顔を見つめる ③ 声を出す
3	音の方へ首を回す 〔2〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもには見えない方向から種々の音（ガラガラ、タイコなど）をならす。その方向に頭を向けさせる。 2. 自分から首を回すことができない時には、その方向に頭を回してあげる。 3. いろいろの方向から、種々の音を聞かせる。 4. ふり向いたら、音をもう一度聞かせてやり、ほめる。 5. 1日数回行う。 <p>＜記録の方法＞ 次のうちのいずれであるかをシートに記入する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 音がしても首を回さない（頭を手をもってふり向かせる）。 ② 少しのプロンプト（頬に手を触れて）で、ふり向くことができる。 ③ 完全にできる。
4	人の声のする方に向く 〔3〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 少し離れた所から子どもの名前を呼ぶと、自分からふり向くようにする。 2. できない時には、頭をもって首を廻してあげる（母親が子どもを抱き、父が呼びかけ、母親が子どもの首をまわす）。 3. いろいろな方向から声をかける。 4. 声のする方に向けた時には、もう一度呼んでやり、ほめる。 5. 1日数回行う。 <p>＜記録の方法＞ 受容言語シート番号3と同一。</p>
5	音楽や歌に聞き入る 〔5〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもがぐっすりしている時、音楽や歌を聞かせる。 2. 子ども、姉弟、父母の名前や犬、猫などをおりこんだ歌を歌ってきかせる。 <p>＜記録の方法＞ 次のうちいずれであるかをシートに記入する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 反応なし ② 歌をうたったりすると、じっと聞き入り、母親の目や口をじっと見つめる。
6	自分の名前がわかる 〔9〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活場面で、時々名前を呼んであげる。 <p>＜援助の方法＞ 1. 父親が子どもの名前を呼び、母親が「〇〇ちゃんて呼んでるよ。」などと言ってふり向かせ、父親が子どもを抱いてあげる。</p> <p>＜記録の方法＞ 次のうちいずれであるかをシートに記入する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ふり向く ② ふり向かない
7	「いけません」「みてごらん」ということがわかる 〔9〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 危険なことや望ましくないことを子どもがしようとしている時に、「いけません。」と強く言って、子どもがしていることをやめさせる。 <p>＜援助の方法＞ 1. 「いけません」と言いながら首を横にふって、子どもがしていることをやめさせる。</p>

		2. やめたら、はめてあげる。
8.	日常生活で見聞きしているものの名前を言われるとそちらの方を見る (10)	1. 「パパはどこ？」「〇〇はどこにあるかな？」などの質問をして、子どもがそちらの方を見るようにする。 <援助の方法> 1. できない場合、指示した物の方へ子どもの首をまわしてやり、見させる。そして「〇〇はここにあるでしょう。」と確認させる。 2. 父親や祖父母の場合は、「パパですよ」などと言って抱いてやったり、手を握ってあげる。 <記録の方法> 完全にできるものの名前を日付とともにシートに記入する。
9	「ちょうだい」と言うと手に持っているものをくれる (12)	1. 日常生活の中で子どもが持っているものを「〇〇をちょうだい」と言って、渡すように促す。 2. 渡したらはめてあげる。 3. 1 日数回行なう。 <記録の方法> 次のどのようであるかをシートに記入する。 ①ちょうだいの意味が全然わからない。 ②10回のうち 2～3 回指示に従える。 ③完全に理解して、指示に従える。
10	「〇〇はどこ？」と尋ねると指で示す (12)	1. 「〇〇はどこ？」と尋ねると指で示す。 <援助の方法> 1. できない場合、母親が指でさし、「ほら〇〇はここにあったね」と教える。 2. 数個のものについて、1 日数回教える。 3. 正しく指した時には、ほめる。 <記録の方法> 次のどのようであるか、教える項目の名前をともにシートに記入する。 ①援助が必要 ②10回のうち 2～3 回できる ③完全にできる
11	簡単な命令がわかる (13)	1. 子どもが日常見聞きしていて、物の名前と実物との対応関係がほぼ理解できている物や人（お父さん、ミカン、おしめなど）に関して簡単な指示をする（例えば「おしめもってきなさい」、「お父さんのところへ行きなさい。」）。 2. 指示に従えれば、子どもをほめる。 <援助の方法> できない場合、母親が子どもと一緒に指示の内容を行ない、次第に指をさして教えるだけにし、その後、ひとりで指示に従わせる。
12	体の部分を指す (1 部分) (15)	1. 「おめめはどこ？」「あたまはどこ？」と尋ねると、子どもが目や頭を指す。 <援助の方法> 1. できない場合、子どもと向き合った姿勢で「おめめはどれ？」と尋ね、子どもが指ささなかったら、「ほら、おめめはここでしょう。」と言って教える。 2. 1 日 1 部分から少しずつ増加して教える。 <記録の方法> 受容言語シート番号10と同一。
13	絵本を「ワンワンどこ？」と尋ねると指さす（3～4 個） (15)	1. 絵を見せて、「〇〇はどこ？」と尋ね、子どもに指でさすよう促す。 <援助の方法> 1. できない場合、子どもの手を持ち、絵を指して「〇〇はここにあるね。」と教える。 <記録の方法> 受容言語シート番号10と同一。
14	名前を言われ、物を指さす (15)	1. 子どもの前にコップとスプーンを置く。 2. まず母親が「これはコップですよ。」「これはスプーンですよ。」と指さして教える。 3. 次に、「〇〇ちゃんコップはどれ？」と質問して、子どもに指ささせる。

		<p>4. 2つの物から始めて、3つ、4つ、5つと増やしていき、選り出させる。</p> <p><記録の方法></p> <p>できた項目と、日付をシートに記入する。</p>
15	要求された動作を行う (18)	<p>1. 「手をたたきなさい。」「手をあげなさい。」「立ちなさい。」のように、日常生活で子どもがよくおこなう動作を選んで、言葉だけで指示する。</p> <p>2. 指示に従えたら、はめる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. できない場合、指示をしながら母親がその動作をして見せて、子どもに母親の動作をまねさせる。</p> <p><記録の方法></p> <p>ことばだけで要求した動作ができれば、その動作と日付を記入する。</p>
16	人形の身体の部分を目指す (21)	<p>1. 子どもと向い合って坐る。人形に興味を持たせた後、「お人形のおめめはどれ?」と尋ねる。目、口、耳、鼻、手、足、首など教える。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. できない場合、子どもの手をとって示し、「おめめはこれですよ。」と教える。</p> <p>2. 1度に教えないで、少しずつ増やしていく。</p> <p><記録の方法></p> <p>受容言語シート番号10に同一。</p>
17	物の名前を尋ねると、指 でさす(実物と絵で7～ 8個) (24)	<p>1. 子どもの前に実物(例えば、コップ、みかんなど)を置き、「コップはどれ?」と尋ねる。実物ができたら、絵本の絵を指さすように教える。</p>
18	赤、青など2色以上の名 前がわかり、正しく指す (24)	<p>1. 子どもに「赤はどれ?」と尋ねて、子どもが赤色を指したらよい。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. できない場合、母親が子どもに「これは赤い色ですよ。」と教える。</p> <p>2. 日常生活のさまざまな場面で、「赤」「青」などのことばを親が教える。</p> <p><記録の方法></p> <p>受容言語シート番号10と同一。</p>
19	上、中、下のうち一つの 意味がわかる (24)	<p>1. 「これを机の上に置きなさい。」「〇〇の下へ置きなさい。」「箱の中へ入れなさい。」などのことばだけで、上、中、下の意味がわかり指示に従う。</p> <p><記録の方法></p> <p>受容言語シート番号10と同一。</p>
20	「立って手を上げなさい」 など二つの動作に従える (24)	<p>1. 「立って、手を上げなさい」のように二つの動作の指示に従うように教える。</p> <p><援助の方法></p> <p>できない場合、母親がその動作のモデルを示して子どもに教える。</p>

社会身辺自立

受着行動

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	母親の微笑んだ顔を見て 笑う (3～5)	1. 子どもと接する時、いつも視線を合わせて微笑むようにする。 子どもが話しかけたり、笑ったりして反応を示したら、ほめる。 2. くすぐって子どもが笑ったらほめる。
2	ひとりにされたり、床に おろされたり、見知らぬ 場所ではむずかるか泣く (3～5)	1. 抱いている時、床に置いてみて、むずかるか、泣き出すかどうかを観察 する。子どもの要求は世話をし解決してやるが、むずかるといつも抱い てもらえると感じとられないように接することが大切である。 2. 見知らぬ環境の中に入れた時、子どもが安心するように、しっかり抱い たり、話しかけたりする。ひとりで置いたりする前に、その環境になじま せる。 3. 最初は、親しい人や慣れた環境から行う。これは社会的な発達のために 大切である。
3	親しい人に抱かれようと して両手を差し出す(1) (3～5)	1. 子どもを抱き上げる時は、名前を呼び視線を合わせ、両手を優しく握っ てから、腋の下を支えて抱き上げる。 2. あおむけに寝ている時に、母親の両手を子どもの前に差し出して、子ど もが両手をのばすように呼びかける。 この時、母親は子どもの反応をゆったりした気持ちで待つ。 <援助の方法> 1. 全面介助（子どもの両手をとる） 2. 部分介助（軽く腕に触れ、手を伸ばすように励ます） 3. 介助なし
4	親しい人に抱かれようと して両手を差し出す(2) (3～5)	1. 首のすわりがしっかりしてきたら、子どもが腕を伸ばして母親の手をし っかり握った時に、坐位になるようにゆっくりと起こす。 2. 坐位へ起こした時に、首が後方へ急にのけぞらなくなる程首のすわりが しっかりしたら始める。
5	大人が笑いかける前に子 どもが微笑む (3～5)	1. 子どもが先に微笑むような機会をつくる。 2. 子どもが母親の顔を見て微笑んだら、優しく笑ってはめる。 もし、1分たっても微笑まなかったら、母親が微笑んで見せて、まねを するように促す。
6	母親が部屋に入った時や 横切る時に、母親の顔を見 る (3～5)	1. 家の中を歩いて子どもに近づく時や遠ざかる時に、子どもの名前を呼ん で、母親がどちらの方向に行くかに注意させる。 2. 母親は、部屋のあちこちに立ったり、隠れたりして、「○○ちゃん、お母 さんはどこ？」と何度か呼びかける。子どもが反応して母親の方を見たら、 傍に行き優しくほめてあげる。 3. 始めのうちは、子どもの近くで行い、次第に距離を離していく。
7	大人が子どもに話しかけ る時、子どもが大人の顔 を見る (3～5)	1. 子どもに話しかける時、子どもの名前を呼び、子どもの顔を親の顔の方 へ向ける。 2. 子どもと確実に視線を合わせて話をする。
8	見知らぬ人が近づいた時 顔をそむけるか、泣き出 す (6～8)	1. 多くの人に会って、抱いていただく機会をもつ。 2. 新たな人や場所に慣れるために、十分時間をかける。 見知らぬ人が来ると顔をそむけるか、泣き出すようになる。 3. 見知らぬ人が傍に居るのを強要しない。
9	知らない場所で母親から 離れた時、ぐずるか泣き 出す (9～11)	1. 子どもを買物や友人の家など、自分の家から外へ連れ出す機会をもつ。 2. 社会的な経験を多く得る程、母子分離が上手に行える。
10	遊んでいる時に、何度も 母親がいることを確かめ ようとする (16～19)	1. 家のまわりや公園などに連れて行き、危険がないことを確かめてから、 母親から離れていろいろな場所へ行くよう呼びかける。 2. 母親は、子どもから見える所において、子どもが要求する時、優しく応じ てあげる。
11	子どもは大人に抱かれよ うとする反面、時々大人	1. この時期は、子どもが母親の手を借りずに、ひとりで何かができること を認識し始める大切な時期である。母親は、子どものこのような心の芽ば

	<p>から逃げようとする 〔20～23〕</p>	<p>えを上手に育てるよう心がける。</p> <p>2. 子どもを公園や窓の外などに連れていき、子どもがひとりで何かをしようとしている時は、ひとりにして見守ってあげる。子どもが助けを求めてきたら、言葉かけして励ましたり、優しく抱いて慰めてあげる。</p>
--	------------------------------	---

社会的遊び

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	くすぐったり、体を軽くゆすられると笑う 〔3～5〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胸、足、首などをくすぐったり、笑ったり、話しかけたりする。子どもが笑ったら繰り返す。 2. 母親の胸に抱いたり、両膝の上で子どもを上下に動かす。子どもが笑ったら繰り返す。 3. 子どもの顔を横から支えて母親の顔に近づけて、軽く息をふきかけたり、耳の近くで口笛を吹いたりする。また、くすぐるような声で話しかける。笑ったら繰り返す。
2	少し荒々しく振り回すと喜んで声を出したり、笑ったりする 〔3～5〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをしっかり支え、“高い、高い”をゆっくりする。 2. ゆっくり振り回す。 3. 母親は床の上にあおむけに寝て、子どもに母親の顔が見えるように胸の上に抱くか、子どもをあおむけにして母親の膝の上に乘せ、“高い、高い”をする。 4. 子どもが笑ったり、声を出したら、母親は声かけ、頬すりなどして喜びを表わす。
3	鏡に映った自分に手をのばしたり、指でさわったりする 〔6〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの姿が鏡に映てみえるように、子どもの視野の中に鏡を置く。割れない鏡ならベッドの中に、又割れるものは子どもを机に向かって坐らせ、机に置く。 2. 子どもが興味を示さなかったら、母親が鏡に映っている子どもを指さして「○○ちゃん、見てごらん。○○ちゃんがいるよ」と言って興味をもたせる。
4	「イナイ、イナイ、バア」遊びをする(1) 〔6～8〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの正面で「イナイ、イナイ、バア」や「チョチ、チョチ」をして見せ、子どもが喜んだら、また繰り返す。 2. 子どもの顔をタオルでおおい、「○○ちゃんはどこかな?」と呼びかけ、タオルを取り除く。次第に子どもが自発的にタオルを取り除くようになる。 3. 母親の顔をタオルでおおい、子どもが母親の顔を捜し出すように呼びかける。できたら、抱き上げてはめる。 4. 椅子や家具のかげに隠れて「イナイ、イナイ、バア」をしましょう。
5	「イナイ、イナイ、バア」遊びをする(2) 〔9～11〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手を動かして遊ぶ。 2. 「○○ちゃんはこんなに大きいね。」と言いながら、子どもの両腕を上を持ち上げる。 3. 「イナイ イナイ バア」をまねするように励ます。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腕をとってやらせる。 2. 例示して、始め少しかけ手伝う。 3. 介助なし。
6	「チョチ チョチ」遊びをする(3) 〔9～11〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもと向き合って坐り、「チョチ チョチ」と言いながら両手をたたいて見せる。 2. 母親がやってみせ、子どもの手をとって「チョチ チョチ」と言いながら両手を打たせる。 3. 次第に母親の手助けを少なくし、自分1人でできるように励ます。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全面介助 2. 部分介助（軽く腕を内側へ押す） 3. 介助なし
7	子どもの声や動作に母親が笑いかけると、子どもはそれを繰り返す 〔9～11〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもがかわいい仕草やおかしな動作を見せたら、母親は声を出して笑ってみせ、もう一度やるように促す。 2. 子どもが発した声をまねして聞かせる。その声を聞いて子どもが繰り返して声を出したらはめる。
8	他の子どもと遊ぶ 〔10～16〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもは、他の子の髪を引っばったり、つねったり、物を横取りするなど、他人と何らかのかかわりをもつようになる。 2. 子どもと同年齢の他の子どもと一緒にいる機会を時々設け、二人で遊べるおもちゃなどを与える。 <p><援助の介助></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを同年齢の子どもと一緒にいる機会を設け、母親が子ども同志の

		<p>遊びの媒介となる。</p> <p>2. 子ども二人で遊べるように、オモチャなどを渡し、二人で遊ばせる。</p>
9	オモチャや食べものを手渡す。 (12～15)	<p>1. 子どもにお気に入りのオモチャを渡す。それから、手を伸ばし、「○○ちゃん、オモチャを見せてちょうだいね。」と言う。「ありがとう。」と言って子どもからオモチャを受けとり、すぐに「どうぞ」と言って子どもにオモチャを返す。</p> <p>2. 食事の時、子どもの皿にある食物を1つくれるように言う。子どもが差し出した食物を母親の皿で受け取り、母親の皿にある食物を1つ子どもにあげる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 子どもの手から取って、母親がもらう。</p> <p>2. 片手で子どもの腕を母親の方へ引き、片手を「ちょうだい」と言って差し出す。</p> <p>3. 介助なし。</p>
10	ボール遊びをする (12～15)	<p>1. 子どもの手が届く場所にボールを置き、偶然子どもの体が触れ、ボールが転がったら、「ボール遊びが上手ですね。一緒にボール遊びしましょうね。」と言って、ボールを返す。</p> <p>2. 子どもと向いあって約60cm離れて坐り、ボールを転す。もし、子どもがボールを返せなかったら、父親に子どもの後ろに坐ってもらい、子どもがボールを転すのを手伝ってもらう。</p> <p>3. 子どもが最も使いやすいボールを見つけるため、使うボールをいろいろ変えてみる。</p>
11	いろいろな遊びをする (18)	<p>1. 丈夫な包装紙を子どもに与えて、引っ張ったり、たたいたり、もんだり、破ったりする遊びを一緒にする。</p> <p>2. 大きな鏡の前で遊ばせ、子どもの肩越しに母親の顔を見せる。</p> <p>3. 父親とお馬さん遊びをする。</p> <p>4. オモチャやタイコや木琴などの音の出るオモチャで一緒に遊ぶ。</p> <p>5. 母親が子どもの手と脚を持って、最初母親の髪を、次に子どもの髪をとかす。</p>
12	オモチャをひっぱる(1) (18)	<p>1. 子どもが歩き始めたら、部品がはずれたり、角がとがったりしていない安全な、ひっぱるオモチャを与える。</p> <p>2. 子どもにオモチャのひっぱり方を教える。子どもの注意をひくために、オモチャを速くひっぱってみせる。</p> <p>3. 子どもがひとりでできるようになるまで、子どもの脇に沿って歩き、子どもがオモチャをひっぱるのを助ける。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 手をとってひっぱるのを手伝う。</p> <p>2. 最初、少しだけひっぱるのを手伝い、後は子どもにさせる。</p> <p>3. 介助なし。</p>
13	オモチャをひっぱる(2) (18)	<p>1. 坐っている場所から、オモチャをひっぱる練習をさせる。母親が傍でやってみせ、まねさせる。</p> <p>2. 動く時に音の出るオモチャや動き方のおもしろいオモチャを選ぶ。</p> <p><援助の方法></p> <p>社会的遊びシート番号11と同一。</p>
14	他の子どもが遊んでいる傍で遊ぶ(1) (24～27)	<p>1. 公園、園庭、校庭、友人の家などに連れて行って、他の子どもと遊ぶ機会を多くもつ。</p> <p>2. 他の子どもと一緒に遊ぶように呼びかける。</p> <p>3. もし、他の子どもと遊ばなくても心配しないように、他の子の傍で遊ぶのがこの年齢の子どもに典型的なことだから。</p>
15	他の子どもが遊んでいる傍で遊ぶ(2) (24～27)	<p>1. 子ども達が遊んでいる場面を見せ、その中の1人の子どもの名を呼んで、あなたの子どもを紹介し、仲間に入れてもらう。年上の子どもが、あなたの子どもの面倒をよくみてくれるだろう。</p> <p>2. 子どもには自分のオモチャを持たせておき、他の子どもからオモチャを借りないように気をつける。</p> <p>3. 母親は、優しく子どもの遊ぶ姿を見守り、子ども同志のやりとりにあまり口をはさまない。</p>

食 事

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	ミルクの飲み方が悪い場合の援助の仕方。 〔3～5〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. ミルクの吸い方が悪い場合、スプーンを使ってみる。 2. 乳首の吸い方が上手でない場合、まず子どもが空気を吸い込まないように、哺乳瓶を充分に傾ける。子どもが舌や口□で乳首を封印してしまってミルクがでなくなる場合があるので、この時口の端から端へ乳首をまわしながら哺乳瓶の中に空気の泡が昇ってくるようになるまで動かす。
2	乳房、哺乳瓶がわかり、見ると手をのばす	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの口の方に、ゆっくりと乳房、哺乳瓶を近づけ、子どもがそれを見て手をのばす機会をつくってあげる。 2. 手をのばさない時には、子どもの手を哺乳瓶、乳房に添えて口の中に入れてあげる。
3	食事の時間を予期して、頭や手足を動かしたり、声を出して喜びを表わす 〔3～5〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが食事を予期しやすいように、いつも同じ場所、同じ姿勢で食事をさせる。 2. 子どもの食事への反応が増えるかどうか、また食前に食物を見せて、食事への反応が高まるかどうかを観察する。 3. 子どもをまっすぐに立てて抱いて授乳する。授乳が済むとベッドでおなかの両側か胃を軽くなでてあげる。
4	スプーンから粥状や半糊状の食物を吸って飲みこむ(1) 〔3～5〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 空腹時に、濃いめのおもゆに浸したおしゃぶりを、子どもの口にもってゆき、吸わせてみる。 2. 粥状の食物が通るくらいの大きさの穴の乳首に粥状の食物を入れ、吸わせてみる。
5	スプーンから粥状や半糊状の食物を吸って飲みこむ(2) 〔3～5〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 空腹時、ミルクを与える前に、粥状の食物をスプーンで与えて、吸うように励ます。うまくできた時にはほめる。 2. スプーンをのみこんでしまうようなら、口の横の方からスプーンを入れてみる。
6	スプーンから粥状や半糊状の食物を吸って飲みこむ(3) 〔3～5〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 粥状、半糊状の食物を1回に少しずつスプーンにのせて、何度も与えてみる。 2. すりつぶしたリンゴ、モモ、梨、じゃがいも、人参などいろいろな食物を与えて、好き嫌いなく食べるようにする。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 飲みこもうとする時、あごから喉の方へ軽くなでおろす。 2. 嫌いな食物には、始めは好きな食物をまぜて与える。
7	支えなしで哺乳瓶をもち飲むことができる 〔6～8〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビンを与える時、子どもの手をビンのまわりに置くように手を添えさせる。両手が無理なら片手だけでも添えさせる。 2. ひとりでビンが持てるように、少しずつ母親の介助を減らしていく。 3. 種々のビン（プラスチックのビンなど）を使ってみて、どれが一番良いかをみる。ビンに飲み物をいっぱいに入れないで$\frac{1}{2}$位が良い。 4. ビンを落した時、最初と同じ方法でビンを持たせる。
8	助けられてコップから飲むことができる(1) 〔6～8〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どものお気に入りのコップに、少量の飲み物を入れ、母親が子どもの手をもってコップの取っ手を握らせ、少しずつ口に運ばせてあげる。 2. 種々のコップを使ってみる。左右に取っ手のついた、直径5～10cm位のコップが適切。 3. コップを傾けた時、子どもが必要な量を調節できるように、蓋付きのコップを使用するとよい。
9	助けられて、コップから飲むことができる(2) 〔6～8〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 喉がかわいている時、コップを見せる。 2. 最初はお気に入りのコップに好きな飲み物を入れてあげる。始めは、粘りのあるどろどろした飲み物を用いる。非常に甘い物や酔っぱい物は、唾液が沢山出るのでさけた方がよい。 3. 子どもの後ろか横に坐り、カップを少しずつ傾けてあげる。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 唇が下側の歯をおおい、コップの縁が上側の歯と触れあうように、コップは下唇の上に置く。
10	食物をかむ動作ができる(1) 〔6～8〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 始めは、バナナ、マッシュポテトなどの柔らかい食物を与える。 2. 母親は、子どもにかむ動作をして見せ、まねするように励まし、子ども

		<p>かむ動作をしている時は、「ウマウマ」と声をかけてあげる。</p> <p>3. 食物が口の中にある時には、頬をなでおろしてあげる。</p>
11	食物をかむ動作ができる (2) (6~8)	<p>1. 食事シート番号10が上達したら、種々の舌ざわりの食をそえる。</p> <p>2. チーズ、パンの耳、ウエハースなど次第に舌ざわりのある食物に変えていく。</p>
12	手を使ってひとりで食べる(1) (8~10)	<p>1. 子どもにビスケット、クラッカーなど好きな食物を手持させ、その手を口の方へ動かしてやる。必要なら、手を口までもって行ってやる。</p> <p>2. 遊び食いが増えるので、食事は20~30分位で切りあげるようにし、副食を多く与えるように心がける。</p>
13	手を使ってひとりで食べる(2) (8~10)	<p>1. お盆に子どもの大好きな食物の薄片を置き、食物をつかんで口の中へ入れる方法をやってみせ、子どもにもさせる。必要に応じて介助する。</p> <p>2. スティック状の食物を用いるのもよい。</p>
14	スプーンや口角についた食物をなめてとる(1) (9~11)	<p>1. 上顎や頬の内側にウエハースなどの食物の薄片をつけてやり、これを舌でとらせてみる。</p> <p>2. あまり甘い物や酢っぱい物は唾液が出るので避ける。</p>
15	スプーンや口角についた食物をなめてとる(2) (9~11)	<p>1. 棒つきキャンディーやソフトクリームなどの子どもの好物を使ってみる。</p> <p>2. 母親が舌を突き出して、なめる方法を見せて、子どもにもさせる。</p> <p>3. 鏡に映してみる。</p> <p>4. 上記1.2が可能になったら、ハチミツ、バターピーナッツなどを子どもの口角につけてなめる練習をする。</p>
16	コップをもってひとりで飲む(1) (12~14)	<p>1. 喉がかわいている時、蓋のない子ども用コップに好物の飲み物をす程入れる。</p> <p>2. コップをもって、口へ運ぶのを手伝う。</p> <p>3. 液状ヨーグルトのような粘りのある飲み物から始める。</p> <p>4. あまり甘いジュースは用いない。</p>
17	コップをもってひとりで飲む(2) (12~14)	<p>1. 次第に介助を減らして、できるだけ自分の力で飲むようにさせる。</p> <p>2. コップに$\frac{3}{5}$以上入れて飲ませてみる。</p>
18	コップをもってひとりで飲む(3) (15)	<p>1. テーブルの上からコップを取り上げ、口にもって行って飲み、飲み終わったらテーブルの上にコップを戻すという一連の動作をなるべく子どもひとりですべてできるように励ます。</p>
19	沢山こぼすが、ひとりでスプーンを使って食べる(1) (12~15)	<p>1. 子どもの好きなマッシュポテト、リンゴのすりおろし、プリンなどの粘りのあるスプーンにのりやすい食物から始める。スプーンは平たく、柄の短い子ども用の物がよい。</p> <p>2. 子どもの後ろか横に坐り、スプーンで食べさせる一方、子どもにも別のスプーンをもたせ、食物をのせてやり何度かひとりで食べるよう介助する。</p>
20	沢山こぼすが、ひとりでスプーンを使って食べる(2) (12~15)	<p>1. 子どもの後か横に坐り、子どものスプーンに粘りのある食物をのせ、子どもがスプーンを口へもっていくよう援助する。</p> <p>2. 口に連んだスプーンの中味がなくなって気が散るのを防ぐために、次の方法で積極的に食事行動を促す。</p> <p>① 1つのスプーンの中味がなくなると、次のスプーンを他方の手に渡す。</p> <p>② 2つ目のスプーンも空になり、両手に空のスプーンを持っているところに、3つ目のスプーンを差し出す。</p> <p>③ 子どもは、空のスプーンを手放して、3つ目のスプーンを手にとる。これを皿が空になるまで続ける。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 手首をもち介助</p> <p>2. 前腕をもち介助</p> <p>3. 肘をもち介助</p>
21	沢山こぼすが、ひとりでスプーンを使って食べる(3) (12~15)	<p>1. 子どもが、自分でもっているスプーンから食べられるようになったら、ひとりで皿から食物をすくうよう、横か後ろから手伝う。</p> <p>2. スプーンに沢山の食物が入りやすいように、フードガードを使うとよい。</p>

22	食べられる物と食べられない物との区別ができる 〔16～19〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食べられない物を口にもっていったら、取りあげて「だめですよ。」と言ってやめさせる。 2. 類似した食べられる物と食べられない物を同時に見せて、食べられる物を口に入れたり、食べられない物を手にもって遊んだらほめる。
23	吹く動作ができる(1) 〔16～19〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 少し大きめに口をすばめて、吹く動作を子どもに見せ、まねさせる。 2. 空中でティッシュペーパーを吹いてみせ、子どもにまねさせる。 3. ろうそくの火を吹き消したり、コップに水を入れてストローであぶくをたててみせ、まねさせる。ろうそくやマッチは子どもの手の届かない所に置く。
24	吹く動作ができる(2) 〔16～19〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 熱いスープや煮物を口でふいてさます動作を母親がやってみせ、子どもにもまねさせる。 2. 洗面器や子ども用プールに水を入れ、紙などでできた舟のオモチャを浮かべ、吹いて移動させる遊びを一緒にやって、吹く練習をさせる。 3. ひとりで吹けるようになれば、少し熱い食物を与える時、「フーフーしてから食べなさい。」と言って、ひとりで吹いてさますさせる。
25	吹く動作ができる(3) 〔16～19〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 洗面器やプールに水を入れ、紙などでできた舟のオモチャを浮かべ、吹いて移動させる遊びを一緒にやる。 2. シャボン玉をつくるように、ストローをもってやり、吹いて見せ、まねさせる。
26	ストローを使って上手に飲む 〔19〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい乳首や小さい穴の乳首の哺乳ビンを使用して、吸う力を強めてあげる。 2. 食事中に口をすばめ「チュチュ」や「ムム」と発音させたり、舌うちさせたりする。 3. 飲み物をストローで与え、ストローで上手に飲む練習をする。
27	食物をむいて食べる(1) 〔20～23〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. ろう紙やセロファンで小さな食物をおおぎばに包んだものから、中味を取り出して見せ、子どもにもそうするように促す。 2. 「中に何が入っているのかしら？」などの声かけをしながらやってみるとよい。
28	食物をむいて食べる(2) 〔20～23〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 飴を包んである紙のねじりをゆるめて子どもに手渡し、その後ひとりで取り出させる。 2. バナナの皮を半分むいて手渡し、その後ひとりで皮をむくよう促す。
29	食物をむいて食べる(3) 〔20～23〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. ひとりで飴の包みをとったり、バナナなどの果実の皮をむいて食べることができるよう励ましてあげる。

着 脱

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	着脱時に、手足を差し出すことによって協力する (1) (12～15)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに、着脱に協力する機会を与える。 2. 子どもに下着や上着をきせる時、子どもの腕の近くにそでをもっていき、そでの方に手をあげさせる。 3. 子どもの足のそばに、靴やソックスやズボンをもっていき、その方向に足を出すように励ます。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全面介助（手足を手引きして動かさせる）。 2. 部分介助（声をかけながら、軽く手足に触れ、協力させる）。 3. 介助なし。
2	着脱時に、手足を差し出すことによって協力する (2) (12～15)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに下着や上着を着せる時、体を動かしたり、触れたりして、体の名称を教える。 2. 子どもに名称を言い、その部分を動かし協力するよう励ます。
3	着脱時に、手足を差し出すことによって協力する (3) (12～15)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの手足を少しだけ衣類に入れておき、子どもが協力して手足を動かすように促す。 2. 「いない いらない ばあ」などの遊びを入れて行なうとよい。
4	帽子、ソックス、靴などの簡単な衣類を脱ぐ(1) (12～15)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 帽子を使って、「いない いらない ばあ」をして遊ぶ。 2. 少し大きめの帽子を用いる方がよい。
5	帽子、ソックス、靴などの簡単な衣類を脱ぐ(2) (12～15)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソックスを途中まで下げておき、最後まで脱ぐように促す。時間をかけてやらせ、やり終えたらほめてあげる。 2. 靴を途中まで脱がせ、最後まで脱ぐように促す。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全面介助（手をとってやらせる）。 2. 部分介助（子どもの手を衣類の方へもっていき、その後自分でやらせる）。 3. 介助なし。
6	帽子、ソックス、靴などの簡単な衣類を脱ぐ(3) (12～15)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣類を脱ぐようことばかけし、うまくできたらほめる。 2. 必要に応じて母親がソックスを脱ぐことを子どもの横で一緒にやってみせる。
7	大きなファスナーの上げ下げができる(1) (20～23)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 少なくとも15cm位の大きなファスナーを用いる。 2. ファスナーが容易に動くように、石鹸を塗ったり、ファスナーのつまみにリングや玉を結びつける工夫をする。 3. 子どもにファスナーの上げ下げをやってみせ、子どもの手をとって一緒にやらせる。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全面介助（手をとって一緒にやる）。 2. 部分介助（肘をもってやるように促す）。 3. 介助なし。
8	大きなファスナーの上げ下げができる(2) (20～23)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファスナーがついている箱を作り、その中に子どもの好きなおもちゃやアメを入れておき、ファスナーをあけて中の物をとるように促す。 2. 大きなファスナーボードをつくり、上げ下げをやってみせ、子どもにもさせる。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全面介助（手をそえて一緒にやる）。 2. 部分介助（途中まであけてやるか、手を添えてやり、その後子どもにやらせる）。 3. 介助なし。
9	大きなファスナーの上げ下げができる(3) (20～23)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが着ている服の大きなファスナーをひとりで上げ下げするよう励ます。 2. スナップのはずし方を示してやらせる。 <p><援助の方法> 着脱シート番号 8 と同一。</p>
10	スリッパや靴をはこうと	<ol style="list-style-type: none"> 1. 靴に足を入れることを教えるために、空き箱に子どもの足を入れさせる。

	<p>する(1)</p> <p>(20～23)</p>	<p>2. 大きめのスリッパや靴を使い、ごっこ遊びをさせる。</p>
11	<p>スリッパや靴をはこうと する(2)</p> <p>(20～23)</p>	<p>1. 母親がスリッパや靴をはいてみせ、子どもに大きめのスリッパや靴でまねをしてはさせる。この場合、靴の左右はわからなくてもよい。</p>
12	<p>スリッパや靴をはこうと する(3)</p> <p>(20～23)</p>	<p>1. 子どもが靴をはく時、母親ははきやすいように、靴の入口を大きく広げてあげる。</p> <p>2. はくようにことばかけし、次にやらせる。上手にできたらほめる。</p>
13	<p>ひとりで衣類を脱ぐ(下半身)(1)</p> <p>(20～23)</p>	<p>1. ズボン、スカート、パンツを足首まで下げさせる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 全面介助(手をもって下げさせる)</p> <p>2. 部分介助(途中まで手をそえて下げさせる)</p> <p>3. 言語指示(ことばかけで下げさせる)</p>
14	<p>ひとりで衣類を脱ぐ(下半身)(2)</p> <p>(20～23)</p>	<p>1. 坐ってズボン、スカート、パンツを足首から脱ぎとらせる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 全面介助(手を添えてぬぎとらせる)</p> <p>2. 部分介助(片足だけ、または途中まで手を添える)</p> <p>3. 言語指示(ことばかけでぬぎとらせる)</p>
15	<p>ひとりで衣類を脱ぐ(上半身)(3)</p> <p>(20～23)</p>	<p>1. バンザイをさせ、下端をもって途中まであげてやり、後はひとりで脱がせる。</p> <p>2. 衣類によっては、えり首をもって途中まであげてやり、後はひとりで脱がせる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 全面介助(子どもの手で端をつかませ、その手をもって脱がせる)</p> <p>2. 部分介助(頭を入れる時、最後にひっぱり手伝う)</p> <p>3. 言語指示(ことばかけだけでやらせる)</p>
16	<p>ひとりで衣類を脱ぐ(4)</p> <p>(20～23)</p>	<p>1. 衣類をひとりで脱ぐように励ます。</p> <p>2. 脱ぐのが困難な服(首のまわりがきゅうくつな服、ボタンのついた服など)は、部分的に介助してあげてもよい。</p>
17	<p>簡単な衣類を着る(帽子、靴下など)(1)</p> <p>(21～24)</p>	<p>1. 少し大きめの帽子、靴下などを用いる。</p> <p>2. 着衣の仕方を鏡の前で子どもに示し、子どもにも試みさせる。</p> <p>3. 必ず傍にいて、子どもの着衣行動を見てやり、ほめることを忘れないようにする。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 母親が子どもの手をとって介助し、最後の段階だけ子どもにさせる。</p> <p>2. 着衣過程の前半だけ手伝う。</p> <p>3. 介助なし。</p>
18	<p>簡単な衣類を着る(セーター、シャツなど)(2)</p> <p>(27～32)</p>	<p>1. 少し大きめの衣類を用いる。</p> <p>2. 3. 着脱シート番号17と同一。</p> <p>4. ボタンやスナップなどは母親が手伝う。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 2. 着脱シート番号7と同一。</p> <p>3. 介助なし(ぴったりの衣類で行い、着衣を定着させる)</p>
19	<p>大きなボタン、スナップをはずす(1)</p> <p>(32～35)</p>	<p>1. 床に洋服を広げ、ボタンやスナップのはずし方を示し、子どもにやってみるように励ます。</p> <p>2. 動物の顔を描いたボタンでシートを作り、遊びながら練習させる。</p> <p><援助の方法></p> <p>1. 子どもの手をとって教える。</p> <p>2. 肘、また前腕に軽く触れて介助する。</p> <p>3. 介助なし。</p>
20	<p>大きなボタン、スナップをはずす(2)</p> <p>(32～35)</p>	<p>1. 身につけている衣類のボタンをはずすようにさせる。</p> <p>2. 傍に母親が坐り、ゆっくりやり方を見せてやってから、一緒にやるよう励ます。</p>

		<p>3. ボタンやスナップをひとりではずして、衣類を脱ぐようにさせる。</p> <p><援助の方法></p> <p>着脱シート番号19と同一。</p>
21	<p>ひもをほどく</p> <p>(32～35)</p>	<p>1. くつやケーブのひものはずし方を示し、子どもにまねさせる。</p> <p><援助の方法></p> <p>着脱シート番号19と同一。</p>

排 泄

シート番号	目 標	訓 練 方 法
1	トイレットトレーニング スケジュール表の作成 〔18～21〕	<ol style="list-style-type: none"> 約 2 週間、子どもが覚醒している時の排尿便、失尿便、また、食事や水分の摂り方、一日の活動を観察、記録して、排泄の時間帯を調べる。 上記の調査をもとに、トイレットトレーニングスケジュール表を作成し、それに基づいて実施し、記録し、修正する。
2	便器、またはおまるに坐る 〔21～24〕	<ol style="list-style-type: none"> 飲み物の摂取量を多くする。排泄シート番号 1 のスケジュール表に従って、「○○ちゃん、お便所（おまる）に行こう。」と言って、子どもを連れて行き、ズボンとパンツを下げてやる。 「○○ちゃん、坐りなさい。」と言って、便器（おまる）に坐らせる。 少しでも坐れたらほめてやり、次第に坐る時間を長くしていく。 この時、おしめをはずしてパンツにし、ズボンもトレーニングパンツのようなゆったりしたもののがよい。おまるは、底が広くて安定性があり、前につかまるところがあるものが良く、坐った感触が良ように保温パットを敷いてやる。声かけは、いつも同一のことは使用し、ほめるのは、子どもが立ち上がろうとする直前にする。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 後ろから、太ももの横を押えて坐らせる。 肩を軽く押して、坐らせる。 介助なし。
3	便器、またはおまるで排泄する 〔24～27〕	<ol style="list-style-type: none"> 排泄シート番号 2.と同様の手続きで便器（おまる）に坐らせ、排泄するように励ます。 排泄できたらほめるが、できなくても叱らない。 途中までパンツやズボンをあげてやり、その後、子どもがひっぱってあげるように励ます。 日昼は飲み物の摂取量を多くし、寝る前は少なくする。
4	排泄の要求を意志表示する 〔24～31〕	<ol style="list-style-type: none"> 顔の表情が変化したり、お尻をさわったりなど、何か排泄の徴候を示す行動を見つけた時、「おまるに行こう。」などの言葉かけをして排泄場所へ連れて行く。排泄したら、ほめる。 少しでも、排泄の要求を自分から示そうとしたらほめてやり、「おまるに行こう。」と、排泄行動を強化する。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 言葉かけをして、優しく子どもの背を押して、排泄場所へ連れて行く。 言葉かけをして、一緒に行ってあげる。 排泄を自分から知らせ、排泄場所へ行く。
5	後始末を除いて、排泄行動がひとりで行える 〔24～31〕	<ol style="list-style-type: none"> 最初は、子どもの排泄行動の全てを手伝うが、後始末だけ手伝うところまで、少しずつ介助を減らしていく（例えば、ズボンを途中まで下げてやり、後は子どもにさせる）。 介助を除去するのに急がない。ひとりでできたらほめる。 <p><援助の方法></p> <ol style="list-style-type: none"> 全面介助 部分介助 介助なし